

# 講義概要・授業計画 (シラバス)

令和6年  
(2024)

高野山大学  
密教文化コース



# 第1部 講義概要・授業計画について

## 1. 副学長挨拶

### シラバスを活用しよう！

副学長（密教）

この『講義概要・授業計画』は一般にシラバス（syllabus）と呼ばれています（以下、「シラバス」）。シラバスには今年度の高野山大学の文学部密教学科密教文化コースで開講されるすべての科目に関する情報（授業の目的と概要、授業の到達目標、授業計画、準備学習とその時間、テキスト、参考書・参考資料、学生に対する評価方法、ルーブリック（目標に準拠した評価）、課題に対するフィードバックの方法、その他の注意点など）がコンパクトにまとめられています。シラバスは、今年度1年間のみなさんの学修の指針となるものです。今年度1年間の授業はここに書いてあるように展開されます。シラバスを大切にし、学修に役立ててください。

本学は、2019年度から新しいカリキュラムを導入しました。また、2023年度には密教・仏教の思想や歴史を基本から学ぶ社会人編入学生のための密教文化コースを設けました。提供しているカリキュラムが「宗教哲学的教養を持った社会人」を育成するように設計されていることは、これまで通りです。宗教哲学的教養を持った社会人とは、宗教の智慧を人生の指針とし、様々な問題を抱える現代社会で活かしていける力を持った社会人のことです。言い換えれば、弘法大師の教えを具現化できる人です。

弘法大師の教えを具体化し、実践するためには、密教・仏教の古典の知識はもちろん必要ですが、それだけでは足りません。人に教えを伝えるためには高いコミュニケーション能力も必要ですし、寺院を経営したり、福祉事業を展開したりするための社会活動力も必要です。哲学・歴史・文学といった広い教養も求められ、さらに語学力も求められます。本学カリキュラムは、そうした勉強が段階を追って出来るようになっていきます。

みなさんの健闘を期待しています。

---

## 2. シラバスの見方

---

### 1) 目次について

この『講義概要・授業計画』では、まず目次でシラバスページ番号を確認してください。学生の皆さんが今年度受講する科目の内容は、目次により当該科目のシラバスページを開くことで見ることができます。

### 2) 講義コードについて

講義コードは5ケタの数字になっています。コードは、それぞれ次の内容を表しています。

	5	1	3	2	7
	_____		_____		_____
課程	曜日	時限	通し番号		
5 = 密教学科	1 = 月曜日	1 = 1 講時	01 ~ 25 = 前期授業		
6 = 教育学科	2 = 火曜日	2 = 2 講時	および通年授業 (高野山)		
8 = 別科生用	3 = 水曜日	3 = 3 講時	26 ~ 49 = 前期授業		
9 = 大学院生用	4 = 木曜日	4 = 4 講時	および通年授業 (遠隔授業・難波)		
	5 = 金曜日	5 = 5 講時	51 ~ 75 = 後期授業 (高野山)		
	6 = 土曜日	6 = 6 講時	76 ~ 99 = 後期授業 (遠隔授業・難波)		
	7 = 集中講義	7 = 7 講時			
	8 = 実習				
	9 = 論文				

### 3) 受講登録について

詳細は、本書「学修ガイドブック第2部12章 履修登録の方法」を参照

### 4) 報恩日(21日)の授業実施について

報恩日(21日)は高野山キャンパスで宗教行事が行われますので、授業は原則実施されません。ただし、授業回数の都合で実施する日もありますので、学年暦で授業実施日を確認してください。

## 5)GPAについて

### 1 GPAとは

GPA（グレード・ポイント・アベレージ）とは、科目の評価を下記の表のGP（グレード・ポイント）に換算して算出した評定の平均値のことです。

### 2 目的

学修の到達度をより明確に示し、自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的・意欲的に学修することを目的としています。

### 3 GPAの計算方法

履修登録した各科目の成績（GP）にその科目の単位数を乗じた数値の総和を履修登録した総単位数で除します。小数点以下第3位は四捨五入。

合否	評点	評語	GP	判定基準
合格	90点以上	S	4	授業の到達目標を達成し特に優れた成績である
	89点～80点	A	3	授業の到達目標を達成し優れた成績である
	79点～70点	B	2	授業の到達目標を概ね達成している
	69点～60点	C	1	授業の到達目標を最低限達成している
不合格	59点以下	D	0	授業の到達目標を達成していない
失格	99点	F	0	出席不足・試験欠席等により評価できない
認定	88点	N	対象外	編入等で単位を認定した

$$GPA = \frac{\text{（履修登録した科目のGP} \times \text{その科目の単位数）の総和}}{\text{履修登録した科目の合計単位数}}$$

### 4 GPAに参入されない科目

他大学等で取得するなどし、本学にて認定された「N」評価の科目。

### 5 履修取り消し

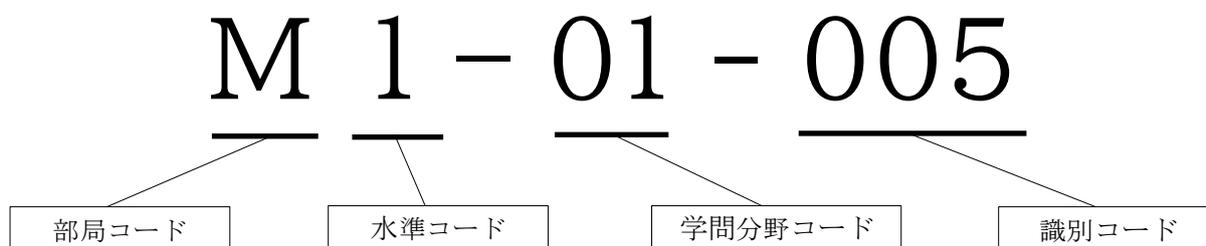
前期は5月末日まで、後期は10月末日までと履修取消期間を設けています。この期間中に履修取り消しの手続を行えば、GPA算出の対象になりません。ただし、必修科目を取り消すと卒業見込みが立たなくなることがあるため注意してください。また通年科目は前期期間にしか取り消すことができませんので注意してください。

※卒業研究・卒業論文を提出しなかった学生は、前期は7月末までに、後期は1月末までに必ず論文科目の取り消しを行ってください。

## 6)科目ナンバリングについて

高野山大学における科目ナンバリングの形式については、授業科目を提供する学科等、関連する学問分野、難易度を示すコードにより構成します。

<高野山大学科目ナンバリングの形式>



<各コードの定義について>

### 1 部局コード

部局コードは、当該授業科目を提供している学部、学科、研究科等の単位で区分するために項目です。

<部局コード分類表>

コード	部局名
G	学部
M	密教学科
K	教育学科
B	別科
D	大学院

### 2 水準コード

水準コードは、授業科目の難易度の目安を示すためのコードです。

コード	水準
1	主に大学1年生を対象とした授業（大学1年次レベル）
2	主に大学2年生を対象とした授業（大学2年次レベル）
3	主に大学3年生を対象とした授業（大学3年次レベル）
4	主に大学4年生を対象とした授業（大学4年次レベル）
5	主に大学院生を対象とした授業（大学院レベル）
6	主に博士後期課程生を対象とした授業（博士後期課程レベル）

### 3 学問分野コード

学問分野コードは、授業科目の属する学問分野を示すための項目です。コードの表記は数字2ケタで表記しています。

コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名	コード	分野名
01	密教学	08	哲学	15	数学	22	社会福祉学
02	仏教学	09	法学	16	キャリア教育	23	家政学
03	宗教学	10	心理学	17	教育学	24	環境教育
04	文学	11	社会学	18	博物館学	25	論文指導
05	国語学	12	歴史学	19	教育社会学	26	その他
06	書道	13	情報学	20	教科教育学		
07	外国語	14	統計学	21	保育学		

### 4 識別コード

識別コードは、授業科目を識別するための項目です。コードの表記は数字3ケタで表記しています。

### 7)シラバス「他」欄について

こちらの欄については、その他の授業の性質について表記しています。「A」は、アクティブ・ラーニングを実施する科目、「I」については、ICTを用いて実施する科目を表しています。授業ではスマートフォンを利用した理解度把握システム等を使用します。スマートフォンを必ず用意してください。利用については、教員の指示に従ってください。

### 3. 文学部密教学科密教文化コース科目目次

授業科目	副題	担当者	曜日	時限	学期	履修態	頁
空海の思想入門S	弘法大師空海の生涯と教え	北川真寛	月曜日	4限目	前期	LSO	55
漢文S	仏教漢文入門	木下智雄	木曜日	3限目	通年	LSO	56
サンスクリット語S	サンスクリット語初級	徳重弘志	水曜日	3限目	通年	LSO	57
梵字悉曇S	梵字悉曇(書道)	添野了	金曜日	5限目	通年	IP	58
宗教思想史IS	南方熊楠と真言密教	小田龍哉	水曜日	4限目	前期	LSO	59
宗教思想史IIS	日本人のメンタリティのあゆみ	櫻木潤	月曜日	4限目	後期	LSO	60
哲学S	哲学・宗教の歴史と基礎	南昌宏	火曜日	1限目	後期	LSO	61
心理学IS	心理学の歴史と基礎I	森崎雅好	金曜日	2限目	前期	LSO	62
心理学IIS	心理学の歴史と基礎II	森崎雅好	金曜日	2限目	後期	LSO	63
密教学概論S	密教学の思想	北川真寛	火曜日	1限目	後期	OD	64
仏教学概論S	仏教学の思想	菊谷竜太	月曜日	3限目	前期	LSO	65
密教史概説S	インド・チベット密教史	徳重弘志	火曜日	1限目	前期	LSO	66
仏教史概説S	仏教の歴史	菊谷竜太	月曜日	3限目	後期	LSO	67
歴史学S	「鎌倉時代の政治過程」	坂口太郎	火曜日	4限目	前期	LSO	68
宗教学IS	宗教学入門	小田龍哉	水曜日	3限目	前期	LSO	69
宗教学IIS	宗教と公共性	小田龍哉	水曜日	3限目	後期	LSO	70
祖典講読IS	『即身成仏義』を読む	土居夏樹	火曜日	2限目	通年	LSO	71
祖典講読IIT	『卍字義』を読む	川崎一洋	水曜日	3限目	通年	LSO	72
祖典講読S	両部の大経を読む	徳重弘志	水曜日	2限目	通年	LSO	73
祖典講読T	『理趣経』を読む	川崎一洋	木曜日	2限目	通年	LSO	74
密教学特殊講義S	胎蔵曼荼羅を読み解く	川崎一洋	木曜日	3限目	前期	LSO	75
密教学特殊講義T	金剛界曼荼羅を読み解く	川崎一洋	木曜日	3限目	後期	LSO	76
密教学特殊講義U	四国遍路の研究 澄禅の日記を読む	柴谷宗叔	金曜日	3限目	後期	LSO	77
密教学特殊講義V	弘法大師伝	櫻木潤	火曜日	3限目	前期	LSO	78
仏教学特殊講義S	古代インド思想から見た仏教	前谷彰	金曜日	3限目	前期	IP	79
仏教学特殊講義T	心とはなにかI	岡田英作	金曜日	4限目	前期	LSO	109
仏教学特殊講義V	インド大乘仏教における空思想	那須真裕美	木曜日	4限目	前期	LSO	80
仏教学特殊講義W	『唯識三十頌』を読む	岡田英作	木曜日	4限目	後期	LSO	81
真言密教特殊講義T	梵字悉曇(慈雲流)の意義と実習	五十嵐啓道	集中	集中	前期	IP	82
真言密教特殊講義U	密教瞑想法	佐藤隆彦	集中	集中	後期	IP	83
密教学講読演習S	真言密教の死生観	土居夏樹	火曜日	3限目	後期	LSO	84
密教学講読演習T	密教とスピリチュアルケア	森崎雅好	木曜日	1限目	前期	LSO	85
密教学講読演習U	歴史資料からたどる真言宗の歴史	櫻木潤	火曜日	3限目	後期	LSO	86
仏教学講読演習S	釈尊伝を読む	前谷彰	金曜日	3限目	後期	IP	87
仏教学講読演習T	心とはなにかII	岡田英作	金曜日	4限目	後期	LSO	110
仏教学講読演習U	『感身学正記』と叡尊関係史料を読む	坂口太郎	火曜日	4限目	後期	IP	88
仏教学講読演習V	仏伝	岡田英作	木曜日	5限目	前期	LSO	89
仏教学講読演習W	仏伝の展開	岡田英作	木曜日	5限目	後期	LSO	90
密教学演習S	卒業研究指導	櫻木潤	火曜日	5限目	通年	LSO	91
密教学演習T	卒業研究指導	菊谷竜太	火曜日	5限目	通年	LSO	92
密教学演習U	卒業研究指導	土居夏樹	火曜日	5限目	通年	LSO	93
密教学演習V	卒業研究指導	徳重弘志	火曜日	5限目	通年	LSO	111
総合科目(仏教入門IS)	仏教の基礎-戒を中心として-	テンジン・ウセル	金曜日	4限目	前期	LSO	94
総合科目(仏教入門IIS)	仏教の基礎-般若心経を中心として-	テンジン・ウセル	金曜日	4限目	後期	LSO	95
企画科目(仏画S)	仏画	徐東軍	月曜日	3限目	通年	IP	96
企画科目(高野山の歴史と文化S)	高野山の歴史と文化	木下智雄	火曜日	2限目	後期	LSO	97
企画科目(仏教美術入門S)	仏教美術史入門	内藤栄	集中	集中	前期	IP	98
企画科目(マインドフルネスS)	マインドフルネス	山本和美	集中	集中	前期	IP	99
サンスクリット語上級S	古典サンスクリット語の文学作品を読む	徳重弘志	月曜日	3限目	通年	LSO	100
チベット語S	古典チベット語文法	井内真帆	木曜日	5限目	通年	LSO	101
パーリ語S	基礎文法	岡田英作	木曜日	3限目	通年	LSO	102
巡礼・遍路S	聖地巡礼の自主企画と実施	密教学科主任	集中	集中	通年	他	103
巡礼・遍路T	四国遍路と各地の巡礼	柴谷宗叔	金曜日	3限目	前期	LSO	104
宗教学方法論S	戦後日本のコスモロジー	小田龍哉	水曜日	4限目	後期	LSO	105
日本文学IS	「日本文学」を読む-上代・中古-	溝端悠朗	水曜日	5限目	前期	LSO	106
日本文学IIS	「日本文学」を読む-中世・近世-	溝端悠朗	水曜日	5限目	後期	LSO	107
中国文化特殊講義S	空海『性霊集』の注釈を読む	南昌宏	火曜日	1限目	前期	LSO	108

科目名	空海の思想入門S						学期	前期	
副題	弘法大師空海の生涯と教え				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M1-01-201	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 5	単位数	2	他	I

### 授業の目的と概要

高野山大学は弘法大師空海の教えを建学の精神にしている。そのため、大師の生涯や思想、大師への信仰を知ることが本学での学びの基本となる。本講義では、専門課程を理解する上で必要となる、基本的な弘法大師の事跡を学ぶことを目的とし、大師の生涯や思想、大師が開創した高野山などについて講義する。

### 授業の到達目標

・弘法大師の思想を学ぶことを通じて、密教学の基礎を涵養する。 ・弘法大師の思想や生涯を理解し、説明できるようになる。 ・弘法大師が開創した高野山とはいかなる場所かを理解し、説明できるようになる。

### 授業計画

1. 絵伝にみる弘法大師空海の生涯 (1) 一生誕～入唐～
2. 絵伝にみる弘法大師空海の生涯 (2) 入唐～帰国～
3. 絵伝にみる弘法大師空海の生涯 (3) 帰国後の活動～入定～
4. 弘法大師空海の著作
5. 弘法大師空海の教え (1) 即身成仏思想解説～
6. 弘法大師空海の教え (2) 十住心思想解説～
7. 弘法大師空海の教え (3) 法身説法解説～
8. 真言密教の教え～曼荼羅解説～
9. 弘法大師信仰 (1) 入定信仰～
10. 弘法大師信仰 (2) 全国に残る大師信仰～
11. 高野山の歴史と地理
12. 高野山の諸堂解説
13. 高野山の年中行事と学道
14. 真言密教の教学～三密行の解説～
15. 高野山の町石道

### 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、都度シラバスを確認し、テキストを読んでおくこと (30分)。 ・事後学習として、講義内容とテキスト・配付資料を見直し、解説した思想や用語を理解すること (60分)。

### テキスト

・北川真寛『はじめての「弘法大師信仰・高野山信仰」入門』(セルバ出版、2018年) 上記テキストを講師が一括で用意、もしくはコピーを配布する。 ・その他は、講師が配付資料を用意する。

### 参考書・参考資料等

・松長有慶『高野山』(岩波書店、2014年) ・川崎一洋『弘法大師空海と出会う』(岩波書店、2016年) ・その他は、講義中に紹介する。

### 学生に対する評価

期末レポート (70%)、リアクションペーパー (30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な弘法大師の生涯と思想の内容を理解できる。
- (B) 基本的な弘法大師の思想内容・用語を理解できる。
- (A) 専門的な弘法大師の思想内容・用語を理解できる。
- (S) 専門的な弘法大師の思想内容・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

### その他

ICTを活用した講義である。 密教文化コース用の講義である。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、弘法大師の生涯や思想、その信仰などを、僧侶としての立場から解説する。

科目名	漢文S					学期	通年	
副題	仏教漢文入門				授業方法	講義	担当者	木下智雄
ナンバリング	M1-07-202	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他 A

### 授業の目的と概要

弘法大師空海の文章を読むためには、まず仏教漢文を読解する基礎を修得する必要がある。そのために必要な漢文法、難読字の読み方、特殊な用語、仏典・中国古典に関する知識、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを身に付ける。その仏教漢文の読解の実践として、明治期に教科書等に使用されていた訓点付き漢文をテキストに用い、読解することで、日本密教を学修・研究するための基礎的な能力を修得する。受講生は、テキストの音読を必須とする。

### 授業の到達目標

漢文訓読の基礎を修得する。仏教漢文の特徴を知る。難読字や専門用語を調べることができる。参考文献を見つけ、利用することができる。漢文を読解し、内容を理解することができる。

### 授業計画

#### 【前期】

1. 概論（講義の進め方、参考文献紹介等）について
2. 日本漢文学史概説—漢文の受容と訓読法の確立—
3. 中国王朝史概説—訳経との関連—
4. 漢文訓読法①—漢語の字体と音韻—
5. 漢文訓読法②—漢文の文法・返り点と句法—
6. 漢文訓読法③—漢文の書き下し・文語と口語—
7. 仏教漢語解説 ①—一音写語と偽梵語—
8. 仏教漢語解説 ②—一字解釈・多義語と新字—
9. 仏教漢語解説 ③—熟語解釈・六合積—
10. 仏典訓読①—『般若心経』を読む①—旧訳と新訳—
11. 仏典訓読②—『般若心経』を読む②—語義解釈—
12. 仏典訓読③—『般若心経』を読む③—意識対照—
13. 仏典訓読④—『妙法蓮華経』譬喩品を読む—構造の分析—
14. 仏典訓読⑤—『妙法蓮華経』普通品を読む—偈文を読む—
15. 仏典訓読⑥—『梵網経』を読む—偽経の成立—

#### 【後期】

1. テキスト概説と実践演習の予習について
2. 凝然『冠導三国仏法伝通縁起』を読む①—序文—
3. 凝然『冠導三国仏法伝通縁起』を読む②—天空仏法伝通—
4. 凝然『冠導三国仏法伝通縁起』を読む③—震旦仏法伝通・毘曇宗・成実宗—
5. 凝然『冠導三国仏法伝通縁起』を読む④—震旦仏法伝通・戒律宗・三論宗—
6. 凝然『冠導三国仏法伝通縁起』を読む⑤—震旦仏法伝通・涅槃宗・地論宗—
7. 凝然『冠導三国仏法伝通縁起』を読む⑥—震旦仏法伝通・浄土宗・禅宗—
8. 凝然『冠導三国仏法伝通縁起』を読む⑦—震旦仏法伝通・撰論宗・天台宗—
9. 凝然『冠導三国仏法伝通縁起』を読む⑧—震旦仏法伝通・華嚴宗・法相・真言宗—
10. 凝然『冠導三国仏法伝通縁起』を読む⑨—大日本国諸宗伝通・三論宗・法相宗—
11. 凝然『冠導三国仏法伝通縁起』を読む⑩—大日本国諸宗伝通・華嚴宗・俱舍宗—
12. 凝然『冠導三国仏法伝通縁起』を読む⑪—大日本国諸宗伝通・成実宗・律宗—
13. 凝然『冠導三国仏法伝通縁起』を読む⑫—大日本国諸宗伝通・天宗・真言宗—
14. 頼宝『冠導真言名目』を読む①
15. 頼宝『冠導真言名目』を読む②

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の授業範囲を音読できるようにしておくこと（30分）。難解な語彙や漢文訓読などについて理解しておくこと（30分）。出典を探し、原典を確認しておくこと（30分）。

### テキスト

前期：前野直彬『精講 漢文』（ちくま学芸文庫）。後期：凝然『冠導三国仏法伝通縁起』永田文昌堂、頼宝『冠導真言名目』藤井文政堂など。※後期の演習テキストは、国立国会図書館のデジタルアーカイブで参照可能なものを利用する。

### 参考書・参考資料等

佐藤雅一『発展30日完成 漢文高校初級用』（日栄社）。水野弘元『仏教要語の基礎知識』2006年 船山徹『仏教漢語語義解釈』2022年・同『仏典はどう漢訳されたのか』2013年。伊藤丈『仏教漢文入門』など

### 学生に対する評価

レポート（50%）、発表（50%）。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 漢文を書き下し文に出来る。
- (B) C段階に加え、難読漢字を読める。
- (A) B段階に加え、内容を精確に理解できる。
- (S) A段階に加え、専門的な疑問点を提示できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

後期の実践演習テキストは、受講者の要望によって一部に変更することがある。授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。前期は、講義を中心とするが、後期は受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングを必要とする。

科目名	サンスクリット語S					学期	通年	
副題	サンスクリット語初級				授業方法	演習	担当者	徳重弘志
ナンバリング	M1-07-203	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	2	他 A

### 授業の目的と概要

サンスクリット語とは、インドで古来から用いられてきた言語である。同地域で成立した多くの宗教（仏教、ヒンドゥー教など）では、その聖典がサンスクリット語で著されている。そのため、仏教経典の内容を深く理解するためには、当該の言語の習得が不可欠である。この授業は、学生がサンスクリット語の基礎的な文法事項を理解し、インド古典に対する読解力を高めることを目的とする。

### 授業の到達目標

・学術書におけるサンスクリット語の単語の意味を、辞書を使って調べることができるようになる。・サンスクリット語の基礎的な文法事項を理解し、他者に説明できるようになる。・サンスクリット語で記された古典を、品詞を理解しながら翻訳できるようになる。

### 授業計画

#### 【前期】

1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. 文法（1）：文字と発音
3. 文法（2）：母音の曲用
4. 文法（3）：子音の曲用
5. 文法（4）：比較法・代名詞
6. 文法（5）：数詞・不変化詞
7. 文法（6）：動詞の活用（現在組織 1）
8. 文法（7）：動詞の活用（現在組織 2）
9. 文法（8）：連声法
10. 文法（9）：準動詞
11. 文法（10）：名称詞造語法
12. 文法（11）：合成語法
13. 文法（12）：韻律
14. 文法（13）：動詞の活用（現在以外の時制の組織）
15. 文法（14）：動詞の活用（第2次活用法）

#### 【後期】

1. 前期の講義内容の再確認
2. 読解（1）：散文の翻訳（Pañcatantra 1）
3. 読解（2）：散文の翻訳（Pañcatantra 2）
4. 読解（3）：韻文の翻訳（Bhagavadgītā 1）
5. 読解（4）：韻文の翻訳（Bhagavadgītā 2）
6. 読解（5）：韻文の翻訳（Buddhacarita 1）
7. 読解（6）：韻文の翻訳（Buddhacarita 2）
8. 読解（7）：韻文の翻訳（Buddhacarita 3）
9. 読解（8）：韻文の翻訳（Buddhacarita 4）
10. 読解（9）：韻文の翻訳（Buddhacarita 5）
11. 読解（10）：韻文の翻訳（Buddhacarita 6）
12. 読解（11）：韻文の翻訳（Buddhacarita 7）
13. 読解（12）：韻文の翻訳（Buddhacarita 8）
14. 読解（13）：韻文の翻訳（Buddhacarita 9）
15. 読解（14）：韻文の翻訳（Buddhacarita 10）

### 準備学習(予習・復習)・時間

・【前期】事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、要点を把握しておくこと（90分）。・【前期】事後学習として、授業で学んだ文法事項について復習しておくこと（90分）。・【後期】事前学習として、授業内で指定した文章を現代日本語訳しておくこと（180分）。

### テキスト

吹田隆道『実習サンスクリット文法』、春秋社、2015年（小堀南岳堂書店で購入）

### 参考書・参考資料等

辻直四郎『サンスクリット文法』、岩波書店、1974年

### 学生に対する評価

発表（100%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 文字の配列を理解し、辞書を引いて特定の単語の意味を調べることができる。
- (B) 基本的な文法事項を理解できている。
- (A) サンスクリット語の長文を、ある程度の精度で翻訳できる。
- (S) サンスクリット語の長文を、正確に翻訳できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	梵字悉曇S					学期	通年	
副題	梵字悉曇(書道)				授業方法	実技	担当者	添野了
ナンバリング	M1-01-204	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他 A

### 授業の目的と概要

悉曇とはインド古代文字の一つであるが、日本においては弘法大師空海によって密教と共に請来され、梵語(真言・陀羅尼や種字)を読み書きするための学問(声明業)あるいは書道として相承されて来た。慈雲尊者歿光は江戸期にあつて従来の伝承による悉曇学のみならず、当時伝えられるあらゆる梵字資料を蒐集して言語学の領域にまで及ぶ梵語学を大成し、またインド伝来の原文(貝葉)を研究して、独自の書風(慈雲流)を確立した。本講は真言宗で正統とされる師資相承・面授による実習形式に則つて慈雲流悉曇の基礎を学ぶ。

### 授業の到達目標

梵字悉曇の基礎知識の修得

### 授業計画

#### 【前期】

1. 年間授業計画の説明
2. 梵字・悉曇の伝来と歴史
3. テキストを読みながら説明
4. テキストを読みながら説明
5. 筆を使って実習通摩多12文字
6. 筆を使って実習通摩多12文字
7. 筆を使って実習通摩多12文字
8. 別摩多4文字他
9. 別摩多5文字他
10. (ka) (kha) (ga) の3文字
11. (gha) (ña) の2文字
12. (ca) (cha) の2文字
13. (ja) (jha) (ña) の3文字
14. (ṭa) (ṭha) (ḍa) の3文字
15. (ḍha) (ṇa) の2文字

#### 【後期】

1. 筆を使って実習 (ta) (tha) の2文字
2. " (da) (dha) の2文字
3. " (na) (pa) の2文字
4. " (pha) (ba) の2文字
5. " (bha) (ma) の2文字
6. " (ya) (ra) (la) の3文字
7. " (va) (ṣa) (ṣa) の3文字
8. " (sa) (ha) の2文字
9. " 重字の2文字
10. 塔婆の書き方
11. 刷毛書体について
12. 三尊仏について
13. 光明真言①
14. 光明真言②
15. 諸真言について

### 準備学習(予習・復習)・時間

配布プリントに目を通し、専門用語の意味を理解しておくこと(90分) 授業で学んだ文字を練習しておくこと(90分)

### テキスト

松本俊彰 『慈雲流悉曇梵字入門〔基礎編〕(応用編)』、高野山出版社、2003年 テキストについては授業にて指示する。適宜、プリント配布。

### 参考書・参考資料等

静慈園『梵字悉曇慈雲流の意義と実習』、朱鷺書房、1997年 児玉義隆『梵字必携書写と解説』、朱鷺書房、1991年

### 学生に対する評価

授業参加の積極性(20%)、作品提出(80%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 習った「梵字」を正しく書くことが出来る。
- (B) 「梵字」に慣れて、上達が見られる。
- (A) きれいな梵字を書くことが出来る。
- (S) 「文字」もきれいで、しかも「梵字」の深い理解が認められる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問などは随時受け付け、不定期にでも試験のフィードバックを行う。

### その他

書道用具を準備すること。半紙も必要である。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

真言宗の僧侶として、梵字修得の必要性を講義し、書道を通して、その上達を指導する。

科目名	宗教思想史 IS					学期	前期
副題	南方熊楠と真言密教			授業方法	講義	担当者	小田龍哉
ナンバリング	M1-03-034	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2
						他	A

### 授業の目的と概要

近代日本の「知の巨人」として知られる生物学者・民俗学者の南方熊楠と高野山のかかわりを中心に、真言密教の近代化と南方の「マンダラ思想」について学習する。

### 授業の到達目標

真言密教の近代化について基礎的な知識を養うと共に、その牽引者であった土宜法龍との交流に多大な影響を受けた南方の思想を、真言密教の立場から読み解くことができるようになる。

### 授業計画

1. ガイダンスの後、南方熊楠・土宜法龍の人物紹介
2. 「神社社会に関する意見」を読む
3. 南方の粘菌学
4. 南方熊楠の前半生（少年期～ロンドン滞在期）
5. 「龍聖法印に与ふる書」を読む
6. 土宜法龍の前半生（東京遊学～世界一周旅行）
7. 後七日御修法再興運動
8. シカゴ万国宗教会議
9. 南方・土宜往復書簡を読む（ロンドン滞在期）
10. 南方・土宜往復書簡を読む（那智隠栖期）
11. 南方・土宜往復書簡を読む（第一マンダラ）
12. 南方・土宜往復書簡を読む（第二マンダラ）
13. 「月下氷人——系図紛乱の話」を読む
14. 「二而不二」の思想
15. まとめと総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、前もって配布された資料を読んでおくこと（90分）。事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること（90分）。

### テキスト

特になし。

### 参考書・参考資料等

・南方熊楠『南方熊楠全集』（平凡社、1971年） ・土宜法龍『木母堂全集』（六大新報社、1924年） ・奥山直司・雲藤等・神田英昭編『高山寺蔵 南方熊楠書翰 土宜法龍宛 1893-1922』（藤原書店、2010年） ・小田龍哉『ニニフニ 南方熊楠と土宜法龍の複数論理思考』（左右社、2021）

### 学生に対する評価

期末レポート（70%）、授業中の発言、発表（30%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 南方熊楠の思想を説明できる。
- (B) 真言宗の近代化について大まかな見取り図を説明できる。
- (A) 日本仏教の近代化と近代日本思想について大まかな見取り図を説明できる。
- (S) 曼荼羅の思想について独自の知見を述べるができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教思想史ⅡS					学期	後期	
副題	日本人のメンタリティのあゆみ				授業方法	講義	担当者	櫻木潤
ナンバリング	M1-03-035	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4, 5	単位数	2	他 A

### 授業の目的と概要

宗教は、時代や社会のメンタリティを映し出す鏡である。本授業では、古代から近現代までの日本人の宗教思想のトピックスを取り上げながら、歴史学の視点でその変遷を概観し、日本人のメンタリティの変化のあり様をさぐり、日本人の精神性のルーツを探求する。

### 授業の到達目標

①日本人のメンタリティの変化をたどることによって、それぞれの時代のムードを感じとることができる。②現在の日本人の心のあり様と、これからの日本人にとって宗教とはどうあるべきかについて、自分なりの考えを提示することができる。

### 授業計画

1. 宗教のはじまりをさぐるー人類はいつ「心」を持つようになったのかー
2. 日本人の基層信仰ー自然崇拜と八百万の神々ー
3. 仏教の伝来と受容ー僧尼令にみる国家と仏教ー
4. 大仏造立と神仏習合ー民衆への仏教のひろがりー
5. 「平安仏教」の成立ー「日本仏教」の成立ー
6. 来世への希求ー末法の到来ー
7. 現世をどう生きるかー憂世の克服ー
8. 東山文化の世界ー「わび・さび」の背景ー
9. 日本的伝統の源流ー総合と啓蒙の時代ー
10. 浮世へのまなざしー儒学による社会秩序の構築ー
11. 日本古典への回帰ー“復古”への潮流ー
12. 世直しの気運ー民衆宗教の勃興ー
13. 廃仏毀釈と文化財保護ー精神文化の喪失ー
14. 「総力戦体制」時代の宗教界ー「国家神道」体制の宗教ー
15. 日本人のメンタリティのゆくえ

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：配布プリントを熟読して、用語について辞書等で調べる（90分） 事後学修：授業内容について関心をもったテーマや人物について調べる（60分）

### テキスト

テキストは使用せず、テーマごとにプリントを配布し、授業を進める。

### 参考書・参考資料等

①家永三郎『日本文化史〔第二版〕』（岩波新書〔黄版〕187、2007年。初版1982年） ②田尻祐一郎『江戸の思想史人物・方法・連環』（中公新書2097、2011年） ③村上重良『国家神道』（岩波新書〔青版〕770、2010年。初版1970年）。

### 学生に対する評価

期末レポート（70%）、毎回の授業時での課題（30%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本人のメンタリティの歴史の変遷について説明することができる。
- (B) 日本人のメンタリティについて理解し、現在の日本人の精神性のルーツを説明することができる。
- (A) 日本人のメンタリティについて深く理解し、現代の宗教に関する諸課題について論理的に述べるができる。
- (S) 日本人のメンタリティについて深く理解し、これからの日本人にとって、宗教がどうあるべきかを論理的に述べるができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

①仏像や絵画などの美術作品は、それが制作された時代の宗教思想が表現された造形物である。講義をふまえて、そうしたさまざまな造形物を実際に鑑賞し、それらが制作された時代の人々の思いに積極的に触れる時間をつくるように心がけること。講義でも、博物館・美術館などの展覧会について紹介する。②受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	哲学S					学期	後期	
副題	哲学・宗教の歴史と基礎				授業方法	講義	担当者	南昌宏
ナンバリング	M1-08-036	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他 A

### 授業の目的と概要

西洋・東洋の哲学史・宗教史から、代表的な人物・思想・事項を学ぶ。知的な快樂「?」「!」を体験する。人間とは何か、世界とは何か、宗教とは何かについて考える。難解なものに向き合い、現実の人生における問題解決に哲学を活用し、自ら哲学する姿勢を身に付ける。授業後には、WebClassによる質問の提出を必須とする。

### 授業の到達目標

知っていること、理解していること、分からないことを自覚できる。じっくりと考える習慣を身に付ける。論理的に考えることができる。自分の言葉で論理的に説明できる。

### 授業計画

1. ガイダンス・哲学「バークリ」①
2. 哲学「バークリ」②
3. 哲学「バークリ」③質問回答
4. 中国思想「北宋の五子」①
5. 中国思想「北宋の五子」②
6. 中国思想「北宋の五子」③質問回答
7. 宗教「音楽と宗教」①
8. 宗教「音楽と宗教」②
9. 宗教「音楽と宗教」③質問回答
10. 哲学「パスカル」①
11. 哲学「パスカル」②
12. 哲学「パスカル」③質問回答
13. 中国思想「陸象山」①
14. 中国思想「陸象山」②
15. 中国思想「陸象山」③質問回答

### 準備学習(予習・復習)・時間

テキストを音読する。(10分) 分からない単語を調べる。(10分) 理解できないことを事前に書き出す。(10分) 質問事項を考える。(30分)

### テキスト

コピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

納富信留ほか『よくわかる哲学・思想』ミネルヴァ書房、2019年 湯浅邦弘編著『よくわかる中国思想』ミネルヴァ書房、2022年 櫻井義秀・平藤喜久子編著『よくわかる宗教学』ミネルヴァ書房、2015年

### 学生に対する評価

平常の質問 (50%) 論述形式の期末試験 (50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 講義内容について、適切な疑問を提示できる。
- (B) 「哲学的な問い」を設定できる。
- (A) 「哲学的な問い」に論理的に回答できる。
- (S) 「哲学的な問い」への回答に説得力を持たせることができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内で対応する。 ○オフィス・アワーやメール等でも対応する。

### その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	心理学 I S					学期	前期	
副題	心理学の歴史と基礎 I				授業方法	講義	担当者	森崎雅好
ナンバリング	M1-10-037	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他 I

### 授業の目的と概要

この講義では、個人の心理について、特に、情報を受け取り処理し、思考するという認知的な観点から、これまでの研究知見を紹介する。尚、対人関係や発達の視点からの心理学に関する講義は、心理学Ⅱで取り扱う。

### 授業の到達目標

心理学の歴史、感覚、知覚、記憶、学習、言語、思考、意識等の基礎知識を習得する。

### 授業計画

1. オリエンテーション、授業計画の説明、心理学の歴史とその全体的な枠組みを紹介する。
2. 実験心理学、発達心理学、社会心理学、臨床心理学など、心理学の研究方法について学ぶ。
3. 感覚と知覚について学ぶ。＜感覚の仕組み＞
4. 感覚と知覚について学ぶ。＜知覚の仕組み＞
5. 記憶のメカニズムについて学ぶ。＜記憶の分類＞
6. 記憶のメカニズムについて学ぶ。＜記憶の過程・長期記憶の種類＞
7. 記憶のメカニズムについて学ぶ。＜脳と記憶について＞
8. 学習について学ぶ。＜古典的条件付け＞
9. 学習について学ぶ。＜道具的条件付け・学習と認知＞
10. 学習について学ぶ。＜学習と動機づけ＞
11. 言語と思考について学ぶ。＜言語の発達＞
12. 言語と思考について学ぶ。＜概念カテゴリー＞
13. 言語と思考について学ぶ。＜推論とイメージ思考＞
14. 意識と認知システムについて学ぶ。
15. まとめ。授業を振り返り、疑問点等、復習する。

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと (90 分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認しておくこと (90 分)

### テキスト

梅本堯夫・大山正・岡本浩一・高橋雅延『心理学第2版心のはたらきを知る』、サイエンス社、2014年 (書店で購入)

### 参考書・参考資料等

森津太子・森公美子(編著)『心理学概論』、放送大学、2018年 斎藤勇(編)『図説心理学入門』、誠信書房、2005年 梅本堯夫・大山正『心理学への招待 こころの科学を知る』、サイエンス社、2015年

### 学生に対する評価

レポート (50%)・発表 (20%)・授業参加の積極性 (30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 感覚・記憶・学習・言語と思考に関する心理学の基礎的な用語を理解している。
- (B) 感覚・記憶・学習・言語と思考をもとに心のメカニズムを理解している。
- (A) 感覚・記憶・学習・言語と思考をもとに心のメカニズムを説明できる。
- (S) 感覚・記憶・学習・言語と思考および脳生理学の理論から心のメカニズムを説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

### その他

ICTを活用した授業への参加を求める。授業中にはインターネット(学内のWiFi利用可)に接続できるスマートフォン、タブレット、PCを利用することがある。また、LMSを通じて授業の連絡を行ったり、感想・質問や課題を提出してもらったりする。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)として実務経験を持つ専任教員により、心理学の研究成果が社会においてどのような形で活用されているかについて講義する。

科目名	心理学ⅡS					学期	後期		
副題	心理学の歴史と基礎Ⅱ				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	M1-10-038	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

前期の「心理学Ⅰ」の続編として位置付けている。基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をし、その理解の上に立ち、応用心理学の社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学の領域の理解を学ぶ。

### 授業の到達目標

社会と発達の視点から心理学を学ぶ。

### 授業計画

1. オリエンテーション。授業の進め方、授業計画。心理学の歴史とその全体像の紹介。
2. 動機づけと情動について学ぶ。＜動因とホメオスタシス＞
3. 動機づけと情動について学ぶ。＜誘因動機づけ＞
4. 動機づけと情動について学ぶ。＜学習と動機づけ＞
5. 性格理論を学ぶ。＜特性論と類型論＞
6. 性格理論を学ぶ。＜アイゼンクの性格理論＞
7. 性格理論を学ぶ。＜ビッグファイブ理論＞
8. 人間の発達理論と課題について学ぶ。＜ピアジェの発達理論＞
9. 人間の発達理論と課題について学ぶ。＜フロイトの心理性発達理論＞
10. 人間の発達理論と課題について学ぶ。＜エリクソンのライフサイクル理論＞
11. 対人関係の心理学を学ぶ。＜集団の機能＞
12. 対人関係の心理学を学ぶ。＜意思決定＞
13. 対人関係の心理学を学ぶ。＜社会的手抜き・集団規範＞
14. 個人と社会の心理について学ぶ。
15. まとめ。疑問点の再確認等。

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと(90分)、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと(90分)

### テキスト

梅本堯夫・大山正・岡本浩一・高橋雅延『心理学第2版心のはたらきを知る』、サイエンス社、2014年(書店で購入)

### 参考書・参考資料等

森津太子・森公美子編著『心理学概論』、放送大学、2018年 斎藤勇編『図説心理学入門』、誠信書房、2005年  
梅本堯夫・大山正『心理学への招待 こころの科学を知る』、サイエンス社、2015年

### 学生に対する評価

レポート(50%)・発表(20%)・授業参加の積極性(30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎心理学の続きとして、動機付けや情動、性格などの理論を理解をする。
- (B) 基礎心理学の理解の上に立ち、応用心理学(社会心理学と発達心理学、臨床心理学、集団力学)の領域を理解する。
- (A) 心理学の基礎理論か全般を説明できる。
- (S) 心理学の基礎理論に基づいて総合的に人間を心の動きを説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については毎回授業内でフィードバックを行う。

### その他

ICTを活用した授業への参加を求める。授業中にはインターネット(学内のWiFi利用可)に接続できるスマートフォン、タブレット、PCを利用することがある。また、LMSを通じて授業の連絡を行ったり、感想・質問や課題を提出してもらったりする。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師(指導)として実務経験を持つ専任教員により、心理学の研究成果が社会においてどのような形で活用されているかについて講義する。

科目名	密教学概論S						学期	後期	
副題	密教学の思想				授業方法	講義	担当者	北川真寛	
ナンバリング	M2-01-050	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

インドにおいて発生した密教は、唐代の中国やチベットなどのアジア諸国に伝えられ、さらに弘法大師空海らによって日本にもたらされている。本講義では、各国の密教、そして密教の思想や用語を概観することで、密教の基本的な概念を理解する。

### 授業の到達目標

密教の思想や専門用語を学び、密教思想の総合的理解をつちかう。

### 授業計画

1. ガイダンス・密教総論
2. インド・チベット密教
3. アジアの密教
4. 日本密教
5. 神仏習合（・修験道）
6. 密教の聖典（1）—『大日経』—
7. 密教の聖典（2）—『金剛頂経』（・『理趣経』）—
8. 密教の聖典（3）—『菩提心論』・『釈摩訶衍論』—
9. 密教の曼荼羅（1）—胎蔵曼荼羅—
10. 密教の曼荼羅（2）—金剛界曼荼羅—
11. 密教の成仏論
12. 密教の仏身論
13. 密教の灌頂
14. 真言密教の教え—事六度—
15. まとめと総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、都度シラバスを確認し、授業計画に記されたテーマについて辞書などで意味を調べておくこと（30分）。  
・事後学習として、講義内容と配付資料を見直し、復習をしておくこと（60分）。

### テキスト

講師が配付資料を用意する。

### 参考書・参考資料等

①高神覚昇『密教概論』（大法輪閣、1989年）、②金岡秀友『密教の哲学』（講談社学術文庫、1989年）、③勝又俊教『密教入門』（春秋社、1991年）、④松長有慶『密教』（岩波新書、1991年）など。

### 学生に対する評価

・高野山キャンパス一試験（55%）、講義参加の積極性（45%）  
・密教文化コースレポート（55%）、リアクションペーパー（45%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な密教の思想を理解できる。
- (B) 基本的な密教の思想・用語を理解できる。
- (A) 専門的な密教の思想・用語を理解できる。
- (S) 専門的な密教の思想・用語を理解し、自分の言葉で説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は講義の中で指示する。

### その他

・ICTを活用した講義である。  
・密教文化コースはODで実施する。その他にも講義の内容や順番を変更する場合がある。

科目名	仏教学概論S						学期	前期	
副題	仏教学の思想				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M2-02-051	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	I

### 授業の目的と概要

インドで生まれた仏教がそののちアジア各地にどのように伝わり根付いていったのか。その伝達と受容とともに聖典あるいは律・論典における実際の内容に触れ、言語・思想文化としての仏教を学ぶ。

### 授業の到達目標

初期仏教と大乘思想との言語・思想的な特徴を理解できる。仏教における聖典分類法をその内容とともに提示できる。仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し説明できる。

### 授業計画

1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 仏教の伝達と受容① 南アジア
3. 仏教の伝達と受容② 西・中央アジア
4. 仏教の伝達と受容③ 東南アジア
5. 仏教の伝達と受容④ 東アジア
6. 仏教における聖典分類法と言語文化
7. 初期仏教① ブッタの生涯
8. 初期仏教② ブッタの思想
9. 初期仏教③ 仏典結集と阿含聖典
10. 部派仏教① アショーカ王と根本分裂
11. 部派仏教② 部派における律の違い
12. 部派仏教③ 部派における思想的違い
13. 大乘思想の起源① 僧院生活と大乘思想
14. 大乘思想の起源② 聖典と仏像
15. 試験と総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと (90分)。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと (90分)。

### テキスト

特になし

### 参考書・参考資料等

①馬場紀寿『初期仏教—ブッタの思想をたどる』(岩波新書)、2018年、②「仏教の思想」2・3・4(角川文庫ソフィア)、1996-1997年、③グレゴリー・ショペン・小谷信千代訳『大乘仏教興起時代 インドの僧院生活(新装版)』、春秋社、2018年

### 学生に対する評価

ミニツペーパーならびに課題レポート (30%)、期末試験 (70%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 初期仏教と大乘思想との違いを言語・思想的な特徴とともに説明できる。
- (B) 仏教における聖典分類法を九分十二部経など具体的な術語とともに説明できる。
- (A) 部派仏教におけるグループ間の律や思想の違いを簡単に説明できる。
- (S) アジアにおける仏教の伝達経路の大まかな流れを理解し思想的な変遷とともに概括的に説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

授業のおわりに毎回ミニツペーパーの提出を求める。

科目名	密教史概説S						学期	前期	
副題	インド・チベット密教史				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	M2-01-052	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	I

### 授業の目的と概要

真言密教は、弘法大師による独自の思想も盛り込まれてはいるが、その思想や儀礼の多くはインドの伝統を受け継いでいる。そのため、真言宗について深く理解するためには、インドにおける密教の歴史を把握する必要がある。さらに、日本密教の独自性を理解するためには、比較対象としてチベット密教を知ることも重要である。この授業は、学生がインドやチベットにおける密教の歴史を学ぶことによって、密教史全体における日本密教の位置づけを理解することを目的とする。

### 授業の到達目標

・初期仏教や大乘仏教に対する密教の特色を理解し、他者に説明できるようになる。・インドやチベットにおける密教経典の分類法を理解し、他者に説明できるようになる。・インドやチベットにおける密教史の大まかな流れを理解し、他者に説明できるようになる。

### 授業計画

1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. インドにおける仏教の歴史（1）：初期仏教
3. インドにおける仏教の歴史（2）：部派仏教・大乘仏教
4. インド初期密教（1）：密教の萌芽
5. インド初期密教（2）：密教の形成期
6. インド初期密教（3）：『大日経』の先行経典
7. インド中期密教（1）：『大日経』
8. インド中期密教（2）：『理趣経』・『理趣広経』
9. インド中期密教（3）：『初会金剛頂経』
10. インド後期密教（1）：父タントラ
11. インド後期密教（2）：母タントラ・不二タントラ
12. チベットの密教（1）：前伝仏教期
13. チベットの密教（2）：後伝仏教期
14. チベットの密教（3）：宗派の概説
15. チベットの密教（4）：近代の仏教

### 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、テキストの該当ページを毎回読み、要点を把握しておくこと（60分）。・授業後に毎回宿題を課すので、次回までに小レポートとして提出すること（120分）。

### テキスト

・田中公明『インド密教史』、春秋社、2022年（小堀南岳堂書店で購入）・杉木恒彦、On the Chronology of the Buddhist Tantras、2022年（論文のため、コピーを配布する）

### 参考書・参考資料等

・高橋尚夫 他編『初期密教—思想・信仰・文化—』、春秋社、2013年・高橋尚夫 他編『空海とインド中期密教』、春秋社、2016年・松長有慶 編『インド後期密教』（上・下）、春秋社、2005・2006年

### 学生に対する評価

レポート（55%）、毎回の授業で課す小レポート（45%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 初期仏教、大乘仏教、密教の関係を理解できている。  
 (B) インドやチベットにおける密教経典の分類法を理解できている。  
 (A) 主要な密教経典の特徴を理解できている。  
 (S) インド・チベット密教史の流れを包括的に理解できている。

### 課題に対するフィードバックの方法

・質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。・提出された小レポートに関しては、次の授業において解説を行う。

### その他

・調査学習を取り入れた科目である。

科目名	仏教史概説S						学期	後期	
副題	仏教の歴史				授業方法	講義	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M2-02-053	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	I

### 授業の目的と概要

インドで生まれた仏教がそののちアジア各地にどのように伝わり根付いていったのか。その伝達と受容とともに聖典あるいは律・論典における実際の内容に触れ、言語・思想文化としての仏教を学ぶ。

### 授業の到達目標

初期仏教と大乘思想との言語・思想的な特徴を理解できる。代表的な大乘思想の種類をその聖典とともに提示できる。サンスクリット文化に仏教が与えた影響を簡潔に説明できる。

### 授業計画

1. ガイダンスならびに授業の概要説明
2. 大乘思想① 般若思想① 般若経系聖典群
3. 大乘思想② 般若思想② 般若経注釈群
4. 大乘思想③ 浄土思想
5. 大乘思想④ 法華・華嚴・如来蔵思想
6. サンスクリット文化と仏教① 仏伝文学
7. サンスクリット文化と仏教② 菩薩の思想
8. 大乘思想⑤ 中観思想① ナーガールジュナ・アーリヤデーヴァ
9. 大乘思想⑥ 中観思想② 自立派と帰謬派
10. 大乘思想⑦ 唯識思想① マイトレーヤ、アサンガ・ヴァスバンドゥ
11. 大乘思想⑧ 唯識思想② 有相派と無相派
12. サンスクリット文化と仏教③ 大僧院における詩作教師
13. 大乘思想⑨ 認識論と論理学① ナーガールジュナ
14. 大乘思想⑩ 認識論と論理学② ディグナーガとダルマキールティ
15. 試験と総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として参考資料に提示された次回の授業範囲を読んでおくこと (90分)。事後学習として資料と自分のノートを読み直し、必要な事項を覚えておくこと (90分)。

### テキスト

特になし。

### 参考書・参考資料等

①「シリーズ大乘仏教」全10巻、春秋社、2011-2014年、②「仏教の思想」2・3・4(角川文庫ソフィア)、1996-1997年、③梶山雄一『大乘仏教の誕生 「さとり」と「廻向」』(講談社学術文庫)、2021年、④桂紹隆『インド人の論理学 問答法から帰納法へ』(法蔵館文庫)、2021年

### 学生に対する評価

ミニツペーパーならびに課題レポート (30%)、期末試験 (70%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 初期仏教と大乘思想との違いを言語・思想的な特徴とともに説明できる。
- (B) サンスクリット文化と仏教との関わりを簡潔に説明できる。
- (A) いわゆる仏教四学派(説一切有部・経量部・唯識・中観)の思想的特徴を説明できる。
- (S) 仏教における認識論と論理学の位置付けについて簡単に説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

授業のおわりに毎回ミニツペーパーの提出を求める。

科目名	歴史学S					学期	前期	
副題	「鎌倉時代の政治過程」				授業方法	講義	担当者	坂口太郎
ナンバリング	M2-12-205	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他 A

### 授業の目的と概要

一般に、鎌倉時代は、鎌倉幕府を中心とする歴史観に立脚して論ぜられることが多かった。しかし、実際のところ、朝廷の権力も依然として影響力を残しており、公家・武家の双方向から鎌倉時代史を把握することが重要である。そこで、本講義では、最新の研究成果に基づいて、公武政権をめぐる諸問題について考察し、歴史学への関心を培う。なお、「授業計画」に示す内容は、進捗その他の状況を勘案して変更される場合がある。シラバスの計画通りに授業が進行するとは限らないので、あらかじめ了承されたい。

### 授業の到達目標

①鎌倉時代の政治過程を、朝廷の存在を視野に入れて理解できるようになる。②歴史学における研究史の展開、歴史観の変遷を考える視座をつちかう。③さまざまな史料に基づいて、史実を立体的に復元する意義を認識できるようになる。

### 授業計画

1. 鎌倉時代の政治構造①
2. 鎌倉時代の政治構造②
3. 頼朝上洛
4. 建久七年政変
5. 後鳥羽院政の成立
6. 執権政治の成立
7. 承久の乱
8. 九条道家政権と鎌倉幕府
9. 得宗専制政治の成立
10. モンゴル襲来と公武政権
11. 両統の分立と鎌倉幕府
12. 両統迭立への道
13. 後醍醐天皇の登場
14. 後醍醐天皇の討幕計画
15. 鎌倉幕府の滅亡

### 準備学習(予習・復習)・時間

【予習】事前学習として、参考書・関係論文を毎回読み、鎌倉時代に関係する専門用語の意味を理解しておくこと(100分)【復習】講義内容と講義で配付されるプリントの要点をノートに整理すること(80分)

### テキスト

①プリント・関係資料のコピー、②野口実・長村祥知・坂口太郎『京都の中世史3 公武政権の競合と協調』(吉川弘文館、2022年)※書店などで購入。必ず講義に持参すること。プリントとあわせて随時参照する。

### 参考書・参考資料等

①上横手雅敬ほか『日本の中世8 院政と平氏、鎌倉政権』第2部(中央公論新社、2002年)、②村井章介『北条時宗と蒙古襲来』(日本放送出版協会、2001年)、③川添昭二『日蓮と鎌倉文化』(平楽寺書店、2002年)

### 学生に対する評価

レポート(100%) ※3000字以上

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 鎌倉時代に関する基礎的事項を理解している。
- (B) 鎌倉時代の政治過程について、講義の内容を踏まえて説明できる。
- (A) 鎌倉時代の政治過程について、講義の内容や自分の調査成果を踏まえて論ずることができる。
- (S) 鎌倉時代の政治構造について学問的に説明できるとともに、古文書の価値や研究史についても理解している。

### 課題に対するフィードバックの方法

レポートについては、課題設定や執筆にむけて適宜助言し、提出後に講評する。

### その他

熱意のある学生の受講や、積極的な質問を歓迎する。また、参考書や講義で紹介する論著を読み、歴史学の研究方法を自覚的に学ぶ意欲を持ってほしい。基本的に講義形式を取るが、適宜議論も行うアクティブ・ラーニングでもあるので、受講生の積極的参加が必要である。受講者は、図書館を利用して本講義に関わる書籍を熟読するとともに、史跡などに足を運んで、歴史への関心を育むこと。

科目名	宗教学 IS					学期	前期	
副題	宗教学入門				授業方法	講義	担当者	小田龍哉
ナンバリング	M2-03-055	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 A・I

### 授業の目的と概要

宗教学の歴史と基礎的な理論を学ぶことによって、現代社会のさまざまな現象を宗教の観点から理解する姿勢を身につける。テキストを一緒に読む形で授業を進める。

### 授業の到達目標

19世紀後半に生まれた宗教学の代表的な理論を説明できるようになる。現代における社会現象・文化現象を宗教の観点から解釈、分析できるようになる。

### 授業計画

1. ガイダンスの後、テキスト第1章「宗教学の立場と分野 1」を読む
2. テキスト第1章「宗教学の立場と分野 2」を読む
3. テキスト第1章「宗教学の立場と分野 3」を読む
4. テキスト第2章「宗教の原初形態 1」を読む
5. テキスト第2章「宗教の原初形態 2」を読む
6. テキスト第3章「科学・呪術・宗教 1」を読む
7. テキスト第3章「科学・呪術・宗教 2」を読む
8. テキスト第3章「科学・呪術・宗教 3」を読む
9. テキスト第3章「科学・呪術・宗教 4」を読む
10. テキスト第3章「科学・呪術・宗教 5」を読む
11. テキスト第4章「宗教の諸類型 1」を読む
12. テキスト第4章「宗教の諸類型 2」を読む
13. テキスト第4章「宗教の諸類型 3, 4」を読む
14. テキスト第4章「宗教の諸類型 5, 6」を読む
15. まとめと総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、前もって配布された資料の次回分を読んでおくこと(90分)。事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること(90分)。

### テキスト

脇本平也『宗教学入門』(講談社、1997年) ※テキスト購入の必要はありません。

### 参考書・参考資料等

ジョージ・フレイザー『図説 金枝篇』(上)(下)(講談社、2011年)

### 学生に対する評価

期末レポート(70%)、授業中の発言、発表(30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に読み解くことができる。
- (B) テキストを要約し、批判的に検討することができる。
- (A) 宗教学の代表的理論を説明することができる。
- (S) 社会・文化現象を宗教学の観点から読み解き、自分なりの見方ができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	宗教学ⅡS					学期	後期	
副題	宗教と公共性				授業方法	講義	担当者	小田龍哉
ナンバリング	M2-03-056	実務経験の有無	無	関連DP	1, 5	単位数	2	他 A・I

### 授業の目的と概要

今日の日本社会でもあらためて注目されている宗教と公共性のかかわりについて、宗教学の立場から近代の世俗主義を理論的に再検討することをつうじて、批判的に読み解く。

### 授業の到達目標

世俗主義の基本的理解を得るとともに、比較宗教の観点から宗教と公共空間のかかわりの多様な事例について知識を深める。テキストを一緒に読む形で授業を進める。

### 授業計画

1. ガイダンスの後、テキストの概略を紹介する
2. テキスト第2章「二つの世俗主義」第1節を読む
3. テキスト第2章「二つの世俗主義」第2節を読む
4. テキスト第2章「二つの世俗主義」第3節を読む
5. テキスト第4章「世俗化時代のヨーロッパ」前半を読む
6. テキスト第4章「世俗化時代のヨーロッパ」後半を読む
7. テキスト第6章「宗教と政治のあいだで」を読む
8. テキスト第6章「宗教と政治のあいだで」解題前半を読む
9. テキスト第6章「宗教と政治のあいだで」解題後半を読む
10. テキスト第10章「現代日本の宗教と公共性」第1節を読む
11. テキスト第10章「現代日本の宗教と公共性」第2節を読む
12. テキスト第10章「現代日本の宗教と公共性」第3節を読む
13. テキスト第10章「現代日本の宗教と公共性」第4節を読む
14. テキスト第10章「現代日本の宗教と公共性」第5節を読む
15. まとめと総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、前もって配布された資料の次回分を読んでおくこと(90分)。事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること(90分)。

### テキスト

島菌進・磯前順一編『宗教と公共空間——見直される宗教の役割』(東京大学出版会、2014年)※テキスト購入の必要はありません。

### 参考書・参考資料等

タラル・アサド『世俗の形成——キリスト教、イスラム、近代』(みすず書房、2006年)

### 学生に対する評価

期末レポート(70%)、授業中の発言、発表(30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを正確に読み解くことができる。
- (B) 世俗主義の概念を説明できる。
- (A) 宗教と社会の関係を具体的な事例から説明できる。
- (S) 宗教と公共性の観点から社会・文化現象を読み解くことができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	祖典講読 IS					学期	通年		
副題	『即身成仏義』を読む				授業方法	講義	担当者	土居夏樹	
ナンバリング	M2-01-062	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	A・I

### 授業の目的と概要

密教とは何か。即身成仏とは何か。弘法大師空海の『即身成仏義』はこの問いを追求する古典的名著である。即身成仏は、弘法大師の核心的な教えであり、この教えについて原典から直接学ぶことは、真言宗とは何かを知るためにも必要不可欠なことである。本講義では、この思想の背景にある仏教思想を確認しつつ、原典（漢文）の流麗な文章表現を音読しながら味わい、ゆっくりと読み進めてゆく。

### 授業の到達目標

弘法大師空海の原典に親しみ、その基本的概念・思想を把握して、説明できるようになる。

### 授業計画

#### 【前期】

1. ガイダンスとテキストの紹介
2. 成仏とは？ —三劫成仏と即身成仏—
3. 『即身成仏義』の周辺（附・音便と四声点）
4. 発端問答
5. 二経一論八箇の証文① 『金剛頂経』(1)
6. 二経一論八箇の証文② 『金剛頂経』(2)
7. 二経一論八箇の証文③ 『金剛頂経』(3)
8. 二経一論八箇の証文④ 『大日経』(1)
9. 二経一論八箇の証文⑤ 『大日経』(2)
10. 二経一論八箇の証文⑥ 『菩提心論』
11. 二頌八句（前編） 即身の頌
12. 二頌八句（後編） 成仏の頌
13. 「六大無礙常瑜伽」① 六大の秘義（前編）
14. 「六大無礙常瑜伽」② 六大の秘義（後編）
15. 前期のまとめ&おまけ

#### 【後期】

1. 概論と前期の復習
2. 「六大無礙常瑜伽」③ 「六大能生」①
3. 「六大無礙常瑜伽」④ 「六大能生」②
4. 「六大無礙常瑜伽」⑤ 「六大能生」③
5. 「六大無礙常瑜伽」⑥ 「六大の頭密／無碍自在の身」
6. 「四種曼荼各不離」
7. 「三密加持速疾頌」① 法仏の三密と三密行
8. 「三密加持速疾頌」② 『観智儀軌』
9. 「三密加持速疾頌」③ 『五秘密儀軌』
10. 「三密加持速疾頌」④ 加と持
11. 「重々帝網名即身」
12. 「法然具足薩般若」
13. 「心数心王過刹塵」& 「各具五智無際智」
14. 「円鏡力故実覚智」
15. 後期のまとめと期末レポート総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、該当箇所の素読を行うこと（30分）。・事後学習では、配布された資料を参考に素読および語句・内容の確認を行うこと（60分）。・その他の学習については講義内で指示する（30分）。

### テキスト

・高野山大学編、『十卷章』、高野山大学出版部 ・毎回配布する資料

### 参考書・参考資料等

①中川善教『漢和対象十卷章』、高野山出版社 ②梅尾祥雲『現代語の十卷章と解説』、高野山出版社 ③小田慈舟『十卷章講説』上巻、高野山出版社 ④松長有慶『訳注即身成仏義』、春秋社 ※その他、授業において指示する。

### 学生に対する評価

年度末最終レポート（60%）、授業中の積極的な発言（40%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) (C) 『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」を暗誦している。
- (B) (B) 『即身成仏義』の素読ができ、「二頌八句」の暗誦に加えて、六大・四曼・三密の概念を把握している。
- (A) (A) 『即身成仏義』の素読でき、「二頌八句」の暗誦、六大・四曼・三密の概念把握に加えて、それら概念の関連性を理解している。
- (S) (S) 上記 (C) ～ (A) を踏まえ、『即身成仏義』の思想を説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

年度末最終レポートの総評を行い、復習すべき点を中心に講義をする。

### その他

・事前に該当箇所の書き下し等、必ず予習して授業に臨むこと。・わからない単語に出会ったら、辞書を引くなど、調べる習慣を身に付けること。・受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	祖典講読ⅡT					学期	通年		
副題	『吽字義』を読む				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-01-206	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他	—

### 授業の目的と概要

弘法大師・空海の主要著作であり、『即身成仏義』『声字実相義』とともに三部書に数えられる『吽字義』を、注釈書を参照しながら読み、弘法大師の思想、密教の思想（特に『大日経』が説く言語論）について理解を深める。

### 授業の到達目標

漢文読解力と、弘法大師の思想および密教の思想に関する知識を培う。

### 授業計画

#### 【前期】

- 『吽字義』とは何か（書誌的解説）
- 梵字の基礎知識を学ぶ
- 吽字の字相
- 吽字の字義
- 阿字の字義（略説）
- 阿字の実義（本初不生の実義）
- 阿字の実義（迷悟の所見、経説）
- 汗字の実義（実義の要略、凡夫外道よりの実践）
- 汗字の実義（小乗・大乘よりの実践）
- 汗字の実義（六義よりの実践①）
- 汗字の実義（六義よりの実践②）
- 汗字の実義（字門道よりの実践①）
- 汗字の実義（字門道よりの実践②）
- 汗字の実義（字門道よりの実践③）
- 総括

#### 【後期】

- 偈頌による表現（凡夫外道に対する実義、二乗に対する実義、三論・法相に対する実義）
- 偈頌による表現（三乗・一乗・通仏教に対する実義、一多法界に対する実義）
- 摩字の実義（実義の要略、遮情言絶の実義）
- 摩字の実義（自證表徳の実義、妙用難思の実義、平等摂持の実義）
- 摩字の実義（円満妙徳の実義、損已益物の実義、円融大我の実義）
- 吽字の合説（合説の要略、別相による統括、通相による統括）
- 吽字の合説（字相による統括、実義による統括）
- 吽字の合説（諸乗の因行果の統括、諸経論の教理の統括）
- 吽字合説の余義（虚空變の義趣、自在辯破の義趣、能滿希願の義趣、堅固大力の義趣）
- 吽字合説の余義（降魔恐怖の義趣、等觀歡喜の義趣）
- 『大日経』の言語論① 「具縁品」を読む
- 『大日経』の言語論② 『大日経疏』を読む1
- 『大日経』の言語論③ 『大日経疏』を読む2
- 『大日経』の言語論④ 『大日経疏』を読む3
- 総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(90分)

### テキスト

『十卷章』（高野山大学出版部）所収の『吽字義』 / 松長有慶『訳注 吽字義』（春秋社） ※注釈書はコピーを配布

### 参考書・参考資料等

弘法大師著作研究会『高野山大学密教文化研究所紀要別冊・『吽字義』の研究』（高野山大学密教文化研究所） / 竹村牧男『空海の言語哲学』（春秋社） など

### 学生に対する評価

試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の主要な専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 漢文テキストである弘法大師の著作を読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 弘法大師の著作を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析ことができ、その結果を的確に説明あるいは表現することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

### その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	宗典講読S						学期	通年	
副題	両部の大経を読む				授業方法	講義	担当者	徳重弘志	
ナンバリング	M3-01-207	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	4	他	A

### 授業の目的と概要

真言宗では、『大日経』と『金剛頂経』という経典が、「両部の大経」として重要視されている。両経典は、インドにおいて成立したものであり、『大日経』には漢訳・チベット語訳が、『金剛頂経』にはサンスクリット写本・漢訳・チベット語訳が、それぞれ現存している。真言密教を深く理解するためには、これらの経典の原語による読解が不可欠である。この授業は、学生が密教経典を原語で読解することにより、密教の思想に対する認識を深めることを目的とする。

### 授業の到達目標

・経典の単語の意味を、辞書（サンスクリット語など）を使って調べることができるようになる。・経典の単語の意味を、インドや中国で成立した注釈書を用いて調べることができるようになる。・サンスクリット語やチベット語で記された密教経典を、品詞を理解しながら翻訳できるようになる。

### 授業計画

#### 【前期】

1. イントロダクション（授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. 『大日経』の概要
3. 『大日経』の読解（1）：思想に関する記述の翻訳（住心品 1）
4. 『大日経』の読解（2）：思想に関する記述の翻訳（住心品 2）
5. 『大日経』の読解（3）：思想に関する記述の翻訳（住心品 3）
6. 『大日経』の読解（4）：思想に関する記述の翻訳（住心品 4）
7. 『大日経』の読解（5）：思想に関する記述の翻訳（住心品 5）
8. 『大日経』の読解（6）：思想に関する記述の翻訳（住心品 6）
9. 『大日経』の読解（7）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 1）
10. 『大日経』の読解（8）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 2）
11. 『大日経』の読解（9）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 3）
12. 『大日経』の読解（10）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 4）
13. 『大日経』の読解（11）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 5）
14. 『大日経』の読解（12）：マンドラに関する記述の翻訳（具縁品 6）
15. 総括（授業の全体像の再確認）

#### 【後期】

1. 『金剛頂経』の概要
2. 『金剛頂経』系の密教経典について
3. 『金剛頂経』の読解（1）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 1）
4. 『金剛頂経』の読解（2）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 2）
5. 『金剛頂経』の読解（3）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 3）
6. 『金剛頂経』の読解（4）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 4）
7. 『金剛頂経』の読解（5）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 5）
8. 『金剛頂経』の読解（6）：思想に関する記述の翻訳（金剛界品 6）
9. 『金剛頂経』の読解（7）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 1）
10. 『金剛頂経』の読解（8）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 2）
11. 『金剛頂経』の読解（9）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 3）
12. 『金剛頂経』の読解（10）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 4）
13. 『金剛頂経』の読解（11）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 5）
14. 『金剛頂経』の読解（12）：マンドラに関する記述の翻訳（金剛界大マンドラ 6）
15. 総括（授業の全体像の再確認）

### 準備学習（予習・復習）・時間

・事前学習として、授業内で指定した文章を現代日本語訳しておくこと（180分）。・事後学習として、授業で学んだ内容について復習しておくこと（90分）。

### テキスト

・『大日経』（漢訳・チベット語訳） ※担当者がコピーを配布する。・『金剛頂経』（サンスクリット語・漢訳・チベット語訳） ※担当者がコピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

・頼富本宏、『『大日経』入門 ―慈悲のマンドラ世界―』、大法輪閣、2000年 ・頼富本宏、『『金剛頂経』入門 ―即身成仏への道―』、大法輪閣、2005年

### 学生に対する評価

発表（100%）

### ルーブリック（目標に準拠した評価）

- (C) 経典の単語の意味を、辞書（サンスクリット語など）を使って調べることができる。
- (B) 『大日経』・『金剛頂経』の原書を、ある程度の精度で翻訳できる。
- (A) 『大日経』・『金剛頂経』の内容を、注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) 『大日経』・『金剛頂経』の原書を、注釈書や先行研究を用いた上で、正確に翻訳できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

・調査学習を取り入れた科目である。

科目名	宗典講読T						学期	通年	
副題	『理趣経』を読む				授業方法	講義	担当者	川崎一洋	
ナンバリング	M3-01-066	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 3, 4	単位数	4	他	—

### 授業の目的と概要

『初会の金剛頂経』（『真実撰経』）と、真言宗の常用経典である『理趣経』は、序分がほぼ同内容であり、金剛界曼荼羅の十六大菩薩は、『理趣経』の八大菩薩を2倍にして成立したことが知られている。この講義では、『理趣経』（不空訳『般若理趣経』）を『初会の金剛頂経』の内容と比較しながら読み、『金剛頂経』系密教の理解を深める。漢訳のテキストを中心に講読するが、必要に応じて、サンスクリット原典やチベット語訳、注釈書などを参照する（講師が和訳にて紹介）。また、『理趣経』の曼荼羅についても解説する。

### 授業の到達目標

漢文の読解力と、密教経典やその註釈書等に対する知識を培う。

### 授業計画

#### 【前期】

1. インド密教史通観
2. 『理趣経』とはどのような経典か（書誌的解説）
3. 『理趣経』の曼荼羅
4. 『金剛頂経』と『理趣経』（『金剛頂経』系密教における『理趣経』の位置）
5. 『初会の金剛頂経』（『真実撰経』）概説
6. 金剛界曼荼羅概説
7. 八大菩薩と十六大菩薩
8. 『理趣経』講読1（序分）
9. 『理趣経』講読2（初段①）
10. 『理趣経』講読3（初段②）
11. 十七清浄句と金剛薩埵十七尊曼荼羅（理趣会曼荼羅）
12. 『理趣経』講読4（第二段）
13. 『初会の金剛頂経』に説かれる降三世明王の諸天降伏の物語
14. 『理趣経』講読5（第三段）
15. 試験と、試験問題の解説

#### 【後期】

1. 『理趣経』講読6（第四段）
2. 『理趣経』講読7（第五段）
3. 『理趣経』講読8（第六段）
4. 『理趣経』講読9（第七段）
5. 『理趣経』講読10（第八段）
6. 『理趣経』講読11（第九段）
7. 『理趣経』講読12（第十段）
8. 『理趣経』講読13（第十一段～第十五段）
9. 『理趣経』講読14（第十六段）
10. 『理趣経』講読15（第十七段、百字の偈）
11. 金剛薩埵儀軌類概観①
12. 金剛薩埵儀軌類概観②
13. 弘法大師の『理趣経開題』を読む①
14. 弘法大師の『理趣経開題』を読む②
15. 試験と、試験問題の解説

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(90分)

### テキスト

松長有慶『理趣経講讀』（大法輪閣） ※絶版のため、コピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

田中公明『インド密教史』（春秋社） / 高橋尚夫 他編『空海とインド中期密教』（春秋社） / 高橋尚夫『般若理趣経の基礎的研究』（ノンブル社） / 宮坂宥勝『密教経典 一大日経・理趣経・大日経疏・理趣一』（講談社） など

### 学生に対する評価

試験・レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教経典に出る専門用語を理解し、説明することができる。
- (B) 『理趣経』の漢訳テキストを読み、その内容をある程度に理解することができる。
- (A) 『理趣経』の漢訳テキストを読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。
- (S) サンスクリット原典・チベット語訳・漢訳を比較しながら『理趣経』を読み、その内容を注釈書や先行研究を用いて分析することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

### その他

必ず予習して講義に臨むこと。

科目名	密教学特殊講義S					学期	前期
副題	胎蔵曼荼羅を読み解く			授業方法	講義	担当者	川崎一洋
ナンバリング	M3-01-074	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2
						他	I

### 授業の目的と概要

はじめに「曼荼羅とは何か？」をインド密教の歴史とともに解説し、弘法大師・空海が日本に伝えた胎蔵曼荼羅・金剛界曼荼羅の両部曼荼羅のうち、『大日経』に説かれる胎蔵曼荼羅を取り上げ、その図像の解析をしながら、そこに象徴される思想を読み解く。

### 授業の到達目標

密教図像に関する基礎知識と研究方法を身につけるとともに、密教における図像の役割やその象徴性を理解する。

### 授業計画

1. いろいろな曼荼羅を見てみよう
2. 密教の歴史と曼荼羅
3. 曼荼羅とは何か？①
4. 曼荼羅とは何か？②
5. 『大日経』概説
6. 『大日経』が説く胎蔵曼荼羅
7. 胎蔵曼荼羅の図像の発展
8. 中台八葉院
9. 蓮華部院
10. 金剛手院
11. 遍知院と持明院
12. 釈迦院と文殊院
13. 虚空蔵院、地藏院、除蓋障院
14. 外金剛部院の神々①
15. 外金剛部院の神々②

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

### テキスト

田中公明『両界曼荼羅の仏たち』(春秋社)

### 参考書・参考資料等

田中公明『曼荼羅イコノロジー』(平河出版社) / 田中公明『両界曼荼羅の源流』(春秋社) / 森雅秀『マンダラ事典 100のキーワードで読み解く』(春秋社) / 頼富本宏『曼荼羅の鑑賞基礎知識』(至文堂) / 田中公明『インド密教史』(春秋社) など

### 学生に対する評価

試験・レポート (50%)、授業参加の積極性 (50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 曼荼羅とは何かの説明ができる。
- (B) 胎蔵曼荼羅の全体構造を把握し、説明することができる。
- (A) 胎蔵曼荼羅を構成する諸尊について、図像学の立場から説明できる。
- (S) 胎蔵曼荼羅を『大日経』の内容とともに理解し、そこに象徴される思想が説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

### その他

曼荼羅に関する書籍や論文は多数あるので、できるだけ目を通すように心がけること。また、高野山をはじめ、各地の密教寺院や博物館を訪れ、実際に曼荼羅の作品に触れる機会を持つこと。

科目名	密教学特殊講義T					学期	後期	
副題	金剛界曼荼羅を読み解く				授業方法	講義	担当者	川崎一洋
ナンバリング	M3-01-075	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他 I

### 授業の目的と概要

両部曼荼羅のうち、『金剛頂経』に説かれる金剛界曼荼羅について、その図像を解析しながら、そこに象徴される思想を読み解く。日本に伝えられた金剛界曼荼羅の諸本のほか、インドやチベットの金剛界曼荼羅についても紹介し、さらに、金剛界曼荼羅から発展した後期密教の曼荼羅にも触れてみたい。

### 授業の到達目標

密教図像に関する基礎知識と研究方法を身につけるとともに、密教における図像の役割やその象徴性を理解する。

### 授業計画

1. 『金剛頂経』概説
2. 『金剛頂経』と曼荼羅
3. 金剛界曼荼羅の構造
4. 金剛界五仏
5. 十六大菩薩①
6. 十六大菩薩②
7. 四波羅蜜菩薩と八供養菩薩
8. 四摂菩薩と賢劫尊
9. 外金剛部の神々
10. 六種曼荼羅の図像表現
11. 「降三世品」「遍調伏品」「一切義成就品」の曼荼羅
12. 日本に伝えられた金剛界曼荼羅の諸本
13. インドの金剛界系遺品とチベットの金剛界曼荼羅
14. 後期密教の曼荼羅①
15. 後期密教の曼荼羅②

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、テキストを自分で読み、専門用語の意味を調べ、疑問点をまとめておくこと。(60分) / 講義内容をノートにまとめ、重要な用語やテーマについて覚えなおし、講義で紹介された論文などに目を通しておくこと。(60分)

### テキスト

田中公明『両界曼荼羅の仏たち』(春秋社)

### 参考書・参考資料等

田中公明『曼荼羅イコノロジー』(平河出版社) / 田中公明『両界曼荼羅の源流』(春秋社) / 森雅秀『マンダラ事典 100のキーワードで読み解く』(春秋社) / 頼富本宏『曼荼羅の鑑賞基礎知識』(至文堂) / 田中公明『インド密教史』(春秋社) など

### 学生に対する評価

試験・レポート (50%)、授業参加の積極性 (50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 金剛界曼荼羅の構成について説明できる。
- (B) 金剛界曼荼羅を構成する諸尊について、図像学の立場から説明できる。
- (A) 金剛界曼荼羅を『金剛頂経』の内容とともに理解し、そこに象徴される思想が説明できる。
- (S) 『金剛頂経』と金剛界曼荼羅が密教史の上で果たした役割を説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、受講者全員に回答と解説を提示する。試験については、試験の実施後すぐに正解を発表し、解説をおこなう。

### その他

曼荼羅に関する書籍や論文は多数あるので、できるだけ目を通すように心がけること。また、高野山をはじめ、各地の密教寺院や博物館を訪れ、実際に曼荼羅の作品に触れる機会を持つこと。

科目名	密教学特殊講義U						学期	後期	
副題	四国遍路の研究 澄禅の日記を読む				授業方法	講義	担当者	柴谷宗叔	
ナンバリング	M3-01-076	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4, 5	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

四国遍路について書かれた江戸時代初期の記録、澄禅の『四国辺路日記』を取り上げる。承応2年（1653）に高野山を出発し、四国一周遍路をした日記である。現存する文献史料としては最古級であり、修験者のものであった遍路が一般化する時代の先駆けとなる貴重な記録である。現在の遍路道と比較しながら、変遷をたどるとともに、江戸時代初期の風俗や宗教についても触れる。

### 授業の到達目標

現在の四国遍路を考えるうえで、その原点となる、江戸時代の遍路の実態を理解する。現在と比較することで、歴史的、宗教的、社会的、民俗学的側面から遍路を考えることができるようになる。

### 授業計画

1. 四国遍路の歴史概論
2. 『四国辺路日記』講読 高野山～徳島
3. 『四国辺路日記』講読 徳島中部
4. 『四国辺路日記』講読 徳島南部
5. 『四国辺路日記』講読 徳島南部～高知東部
6. 『四国辺路日記』講読 高知東部～中部
7. 『四国辺路日記』講読 高知中部
8. 『四国辺路日記』講読 高知西部
9. 『四国辺路日記』講読 愛媛南部
10. 『四国辺路日記』講読 愛媛中部
11. 『四国辺路日記』講読 愛媛東部
12. 『四国辺路日記』講読 香川西部
13. 『四国辺路日記』講読 香川中部～東部
14. 『四国辺路日記』講読 香川東部～徳島北部
15. 総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前に次の講義で扱う部分を読み、疑問点を整理しておくこと（60分）。講義中に出てきた検討課題をまとめて、次に備える（60分）。

### テキスト

澄禅『四国辺路日記』（コピーを配布する）

### 参考書・参考資料等

柴谷宗叔『江戸初期の四国遍路』（法蔵館）、同『四国遍路 ころの旅路』（慶友社）、伊予史談会『四国霊場記集』（愛媛県教育図書）、近藤喜博『四国遍路研究』（三弥井書店）、宮崎忍勝『澄禅四国遍路日記』（大東出版社）、頼富本宏・白木利幸『四国遍路の研究』（日本国際文化センター）など

### 学生に対する評価

レポート（50%）、授業参加の積極性（50%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 四国遍路について簡単に説明できる。
- (B) 澄禅の日記の概要について説明できる。
- (A) 澄禅の日記の内容に基き、江戸時代の四国遍路の状況を具体的に説明できる。
- (S) 江戸時代の資料を基に、当時の遍路の状況と、現在につながる歴史の変遷を学術的に説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回講義以降に回答する。疑問点については受講者も交え討議する。

### その他

四国遍路とは何かを事前に知っておくこと。できる限り、前期の「巡礼・遍路T」との通年受講が望ましい。これまで四国遍路をしたことのない人は、夏休み等を利用して、実際に遍路体験してみるといい。できる限り実際に巡拝することを勧める。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

四国遍路120周以上の元老大先達、30年以上の実際の巡拝体験をもとに巡拝方法などを伝授する。この間、遍路道については、澄禅の道と現在の道との比較をはじめ、歴史的な変遷について実地調査した経験を基に講義する。高野山真言宗住職として、性善講を主宰しての巡拝も行っているため、参加することも可能。詳細は講義中に説明する。

科目名	密教学特殊講義V					学期	前期	
副題	弘法大師伝				授業方法	講義	担当者	櫻木潤
ナンバリング	M3-01-208	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 5	単位数	2	他 A

### 授業の目的と概要

弘法大師空海の生涯を歴史学の視点から概観する。歴史学においては、史料をもとに考察するが、弘法大師空海の生涯については、空海の著述そのものが第一級の史料となる。本講義では、できる限り、空海の著述をもとにして生涯の軌跡をたどる。また、平安時代初期の基礎史料となる『日本後紀』は大部分が欠失しているため、空海の著述は平安時代初期の研究において貴重な一次資料となる。空海の生涯をたどるとともに、その著述を通して平安時代初期の社会について考察することを目指す。

### 授業の到達目標

弘法大師空海の著述を読み解きながら、その生涯を理解するとともに、空海が活躍した平安時代初期の社会のあり様をふまえて、日本の歴史上におけるその生涯の位置づけを考察することができる。

### 授業計画

1. 弘法大師空海のイメージ史実と伝承ー
2. 弘法大師空海が活躍した時代ー律令体制成熟期の社会ー
3. 誕生と青年時代ー『三教指帰』序文を読むー
4. 虚空蔵求聞持法の実修から『髻髻指帰』の撰述ー『髻髻指帰』序文を読むー
5. 唐代密教の隆盛ー『大日経』『金剛頂経』の流伝と不空・恵果ー
6. 長安での日々ー『御請来目録』からたどるー
7. 嵯峨天皇と空海ー『性霊集』にみる交流ー
8. 伝教大師最澄との交流ー『高野雜筆集』からみた交流ー
9. 真言密教の流布ー「勅縁疏」を読むー
10. 高野山の開創ー「高野山開創の上表文」を読むー
11. 真言密教による護国ー東寺・神護寺・御七日御修法ー
12. 真言密教による衆生救済ー満濃池と綜芸種智院ー
13. 真言宗の開宗ー真言宗年分度者の勅許ー
14. 弘法大師信仰の成立ー空海以後の真言宗ー
15. 平安時代初期の社会と弘法大師空海の生涯ー歴史学からみた弘法大師空海ー

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：事前に配信するレジュメ（配布資料）を読み、辞書等で用語・語句を調べる（60分） 事後学修：授業で取り上げた空海の著述を熟読し、その内容を理解する（90分）

### テキスト

テキストは使用せず、事前に配信するレジュメや史料にもとづいて講義を進める。

### 参考書・参考資料等

渡辺照宏・宮坂宥勝『沙門空海』（ちくま学芸文庫、1993年）／高木神元『空海の座標』（慶応義塾大学出版会、2016年）／松長有慶『空海』（岩波新書、2022年）／吉川真司『聖武天皇と仏都平安京』（講談社学術文庫、2018年）／佐々木恵介『平安京の時代』（吉川弘文館、2014年）

### 学生に対する評価

毎回の授業コメント（60%）と期末レポート（40%）によって評価する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 弘法大師空海の生涯について理解する。
- (B) 弘法大師空海の著述をもとに、その生涯を理解する。
- (A) 平安時代初期の社会のあり様から弘法大師空海の歴史的な位置を説明することができる。
- (S) 弘法大師空海の著述や他の歴史資料から弘法大師空海の歴史的な位置づけを考察することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックする。

### その他

歴史学は文献を読むことだけでなく、フィールドワークによる現地調査も不可欠である。授業に関連する現地を実際に訪れ、多角的に歴史事象を検討することを心がけてほしい。受講生の希望があれば、現地見学の機会を設ける予定である。

科目名	仏教学特殊講義S					学期	前期		
副題	古代インド思想から見た仏教				授業方法	講義	担当者	前谷彰	
ナンバリング	M3-02-209	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

バラモン教の思想と仏教のそのの徹底的な相違点を解明する。

### 授業の到達目標

バラモン教の思想と仏教のそのの徹底的な相違点を理解すること。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. バラモン教の誕生
3. バラモン教思想の特徴①
4. バラモン教思想の特徴②
5. ウパニシャッド哲学の特徴①
6. ウパニシャッド哲学の特徴②
7. 初期仏教思想①
8. 初期仏教思想②
9. 大乘思想の特徴①
10. 大乘思想の特徴②
11. 宗教の誕生
12. 密教とは何か？①
13. 密教とは何か？②
14. まとめ
15. 試験もしくはレポート

### 準備学習(予習・復習)・時間

予習として、次回のテーマについて調べておくこと。(60分)、復習として、講義で行った内容を見直し、理解を深めること。(90分)

### テキスト

担当者作製『仏教とバラモン教』の資料を配布する。

### 参考書・参考資料等

参考書、参考資料は、授業内で必要に応じて紹介する。

### 学生に対する評価

学期末に行う試験もしくはレポートで評価する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) バラモン教思想の特徴を理解している。
- (B) 初期仏教における要の思想を理解している。
- (A) 初期仏教と大乘の違いを説明することができる。
- (S) 密教とは何かについて答えることができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は、授業の中で指示する

### その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学特殊講義V					学期	前期		
副題	インド大乘仏教における空思想			授業方法	講義	担当者	那須真裕美		
ナンバリング	M3-02-079	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

仏教の主要な思想である「空」は、いずれの時代・地域においても、重要な課題として盛んに論じられ、多様に解釈されてきた。東アジア仏教の淵源であるインド大乘仏教では、空をどのように理解し、議論し、実践してきたのか。このテーマをとくに精力的に扱ったのが、大乘仏教の二大学派の一であり、龍樹を祖とする中観派である。本講義では、大乘仏教に至るまでの思想的展開、龍樹が構築した空思想、さらに彼に続く論師たちの思想を学ぶことで、仏教学全般を理解するための確固たる支柱を獲得することを目的とする。

### 授業の到達目標

とくにインド大乘仏教における空思想の特徴と展開を体系的に把握し、仏教思想全体に対する理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 仏教の思想的展開
2. 初期仏教・部派仏教の思想
3. 初期仏教・部派仏教における空
4. 般若經典類と空(1)
5. 般若經典類と空(2)
6. 般若經典類と空(3)
7. ナーガールジュナ（龍樹）の思想と著作
8. 『根本中頌』が説く思想(1) 縁起と中道
9. 『根本中頌』が説く思想(2) 空と空性
10. 『根本中頌』が説く思想(3) 言語表現と「ことばの虚構」
11. 「ことばの否定」と論理学
12. 中観論師たちの思想と著作(1) バーヴィヴェーカ（清弁）
13. 中観論師たちの思想と著作(2) チャンドラキールティ（月称）
14. 空思想の展開（瑜伽行唯識思想・如来蔵思想）
15. チベット・中国仏教における空思想と全体の総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事後学修として、授業内容と授業で配布した資料の要点をノートに整理する。(60分)

### テキスト

プリント資料を配布する

### 参考書・参考資料等

立川武蔵『空の思想史』（講談社学術文庫1600、講談社、2003年）、正木晃『「空」論』（春秋社、2019年）など。他は随時、授業中に紹介する。

### 学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業への取り組み・課題（40%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 空思想を把握するために必要な用語を理解できる
- (B) 空思想の特徴を理解し、説明できる
- (A) 空思想の特徴と展開を把握できる
- (S) 空思想の特徴と展開を体系的に理解し、説明できる

### 課題に対するフィードバックの方法

疑問・質問については、毎回の授業内で全体に対してフィードバックを行ない、知識を共有する。

### その他

分からない用語や概念があれば自ら辞書や参考文献を用いて学習する等、積極的に理解するよう努めること。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。なお、初回授業で全体の内容理解に必要な事項を確認するので、留意して受講すること。

科目名	仏教学特殊講義W					学期	後期	
副題	『唯識三十頌』を読む				授業方法	講義	担当者	岡田英作
ナンバリング	M3-02-080	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他 A

### 授業の目的と概要

仏教を研究するための基礎知識として、一次文献、二次文献などの文献学に必要な概念を確認し、辞書や文法書など、研究に必要な「工具」について学ぶ。その基礎知識を活用して、インド大乘仏教の二大学派の一翼を担う瑜伽行派の基本典籍であるヴァスバンドゥ著『唯識三十頌』を読み進めながら、瑜伽行派の主要な教理としてアーラヤ識説や三性説、唯識説について知識を得るとともに、文献に接する態度、基本的な読み方を身につけてゆく。

### 授業の到達目標

瑜伽行派における思想を体系的に理解し、自分の言葉で説明できる。文献学に必要な概念を理解し、研究に必要な「工具」を駆使して、漢訳の書き下された、あるいは現代語訳されたインド仏教文献（『唯識三十頌』）を読解できる。

### 授業計画

1. オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2. 仏教を研究するための基礎知識
3. 唯識思想概観
4. 『瑜伽師地論』「本地分中三摩呬多地」Initial Passage読解と読解結果の分析
5. 『唯識三十頌』第1偈～第7偈一識の働き―読解
6. 『唯識三十頌』第1偈～第7偈一識の働き―読解結果の分析
7. 『唯識三十頌』第8偈～第16偈一識の働き―読解
8. 『唯識三十頌』第8偈～第16偈一識の働き―読解結果の分析
9. 『唯識三十頌』第17偈～第19偈一識の働き―読解
10. 『唯識三十頌』第17偈～第19偈一識の働き―読解結果の分析
11. 『唯識三十頌』第20偈～第25偈一三性三無自性説―読解
12. 『唯識三十頌』第20偈～第25偈一三性三無自性説―読解結果の分析
13. 『唯識三十頌』第26偈～第30偈一修行論―読解
14. 『唯識三十頌』第26偈～第30偈一修行論―読解結果の分析
15. 授業の総括とレポートの講評

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、『唯識三十頌』の読解箇所の漢訳の書き下し文や現代語訳を辞書などを駆使して精読すること（90分）。事後学修として、講義内容の要点をノートに整理すること（60分）、講義で取り上げた専門用語を辞書などで調べて理解を深めておくこと（30分）。

### テキスト

担当者がコピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

①加藤弘二郎『『唯識三十頌』を読む』仏典を読むシリーズ、角川書店、2006、②廣澤隆之『『唯識三十頌』を読む』TU選書、大正大学出版会、2005、③長尾雅人・梶山雄一・荒牧典俊訳『世親論集』大乘仏典15、中央公論新社、2005。他は授業中に紹介する。

### 学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 瑜伽行派における基本的な思想・用語を理解している。
- (B) 漢文の書き下された、あるいは現代語訳された文献を辞書などの工具を駆使して精読できる。
- (A) 精読した文献の内容を理解している。
- (S) 瑜伽行派における思想を自分の言葉で説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出された期末レポートについて、フィードバックを行う。

### その他

『唯識三十頌』の輪読を中心に受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。授業には予習ノートと授業中に配布したプリントを持参されたい。

科目名	真言密教特殊講義T						学期	前期	
副題	梵字悉曇(慈雲流)の意義と実習				授業方法	講義	担当者	五十嵐啓道	
ナンバリング	M3-01-210	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

悉曇は弘法大師空海によって密教と共に日本に請来され、梵語（真言陀羅尼や種子）を読み書きするための学問あるいは書道として相承されて来た。慈雲尊者飲光は江戸期にあつて従来の伝承による悉曇学のみならず、当時伝えられるあらゆる梵文資料を蒐集して言語学の領域にまで及ぶ梵語学を大成し、またインド伝来の原文（貝葉）を研究して中国風な変化の影響を離れた独自の書風（慈雲流）を確立した。本講は真言宗で正統とされる師資相承・面授による実習形式に則って慈雲流悉曇の基礎を学ぶものとする。

### 授業の到達目標

・梵字がインドより日本に伝わった概略を理解する。 ・いわゆる慈雲流悉曇の意義と内容を理解する。 ・基本的な悉曇文字が書けるようになる。

### 授業計画

1. 配信 梵字の伝来と歴史（インド・中国・日本）
2. 配信 梵字の伝来と歴史（我が国に於ける相承）
3. 配信 慈雲尊者飲光について
4. 配信 梵字の基本字母（摩多体文）について
5. 配信 基本字母 摩多体文の書き方
6. 対面 授受作法 基本字母 摩多の書き方（通摩多）
7. 対面 基本字母 摩多の書き方（通摩多・別摩多）
8. 対面 基本字母 体文の書き方（五類声）
9. 対面 基本字母 体文の書き方（五類声）
10. 対面 基本字母 体文の書き方（五類声）
11. 対面 基本字母 体文の書き方（五類声）
12. 対面 基本字母 体文の書き方（五類声）
13. 対面 基本字母 体文の書き方（遍口声）
14. 対面 基本字母 体文の書き方（遍口声）
15. 対面 応用 十二点と切継について

### 準備学習(予習・復習)・時間

テキストを通して悉曇字母表の概要を理解しておくこと。対面授業は梵字書法の実習指導になるので書道道具を用意し、配信による「摩多体文の書き方」を視聴して夫々の文字が書けるように練習しておくこと。

### テキスト

①松本俊彰『慈雲流悉曇梵字入門（基礎編）』高野山出版社刊 部分（標題紙・目次・本文全270頁中〈5～35頁、75～138頁〉・奥付）の電子複写 ②『悉曇摩多体文手本』半紙大11枚（伝授〈講義〉時にお渡しします）

### 参考書・参考資料等

松本俊彰『慈雲流悉曇梵字入門（応用編）』高野山出版社 静慈円『梵字悉曇（慈雲流の意義と実践）』朱鷺書房 田久保周著、金山正好補筆『梵字悉曇』平川出版社

### 学生に対する評価

授業参加の積極性（20%） 作品提出（80%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 習った梵字を書くことができる。
- (B) 梵字に慣れ基本的な書法を理解している。
- (A) 正確で美しい梵字を書くことができる。
- (S) 文字もきれいで、しかも梵字に対する深い理解が認められる。

### 課題に対するフィードバックの方法

対面授業により直接実技添削指導を行う。

### その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。伝統的な師資相承による伝授形式をとるので身心を整え袈裟念珠を持参されたい。(略袈裟可) 実習については習字のしやすい格好で書道道具と半紙を用意のこと。(筆は太筆。半紙に六文字程度書ける太さのものが望ましい。)

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

真言宗僧侶であり慈雲流悉曇の継承者である教員が、伝統的に相承されてきた悉曇の概要と書法を実技指導する。

科目名	真言密教特殊講義U						学期	後期	
副題	密教瞑想法				授業方法	講義	担当者	佐藤隆彦	
ナンバリング	M3-01-087	実務経験の有無	無	関連DP	2, 5	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

阿字観は、阿の一字を徹頭徹尾観ずる密教の観法である。通常の密教実践は出家者にだけ許されているが、阿字観は在家の人でも修することができる。密教観法の一つである月輪観と阿字観についてについてその理論と実習を通じ修得する。

### 授業の到達目標

阿息観を踏まえて、月輪観と阿字観について、理論を修得するとともに説明できるようになる。

### 授業計画

1. 瞑想の目的と種類
2. 阿息観について
3. 阿息観の実習
4. 月輪観について
5. 月輪観について
6. 月輪観実習
7. 『大日経』と阿字
8. 阿字観について
9. 阿字観について
10. 阿字観実習
11. 自由討論
12. 阿字観の口訣
13. 阿字観の口訣
14. 阿字観実習
15. レポート作成と講評

### 準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として、授業で修得したことを整理し、身に付けること。(120分)

### テキスト

①山崎泰廣著『真言密教阿字観瞑想入門』（春秋社）その他コピー配布

### 参考書・参考資料等

『大日経』、『大日経疏』、『定本弘法大師全集』等

### 学生に対する評価

レポート（80%）、授業参加の積極性（20%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 密教の基本的文献を調査し読むことができる。
- (B) 月輪の意味について説明できる。
- (A) 実習を通して月輪の意味をより深く説明できる。
- (S) 密教瞑想法の思想的背景について説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

講義のまとめり毎、実修毎にフィードバックを行う。

### その他

楽に坐れる服装で出席のこと。匂いの強い化粧、ネックレス、イヤリングをしないこと。受講の間に、釈尊の胸中、空海の悠大な悟境の片鱗に触れていただきたい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学講読演習S					学期	後期	
副題	真言密教の死生観				授業方法	講義	担当者	土居夏樹
ナンバリング	M3-01-090	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 5	単位数	2	他 A

### 授業の目的と概要

生と死について問題にすることは、自分自身の存在の意味を問うことでもある。本講義では、仏教における死生観を通して、弘法大師の教学では私たちの生と死がどのように理解されるのかについて考える。

### 授業の到達目標

仏教における死生観の思想史的展開を通して、弘法大師の思想における死生観がどのような意味を持つのかについて理解し、説明できるようになる。

### 授業計画

1. ガイダンスとイントロダクション
2. 凡夫の生死 ① 苦としての生死
3. " ② 五蘊と無我
4. " ③ 縁起としての生死
5. " ④ 輪廻の世界
6. 仏陀観の変遷 ① 釈尊の生涯
7. " ② 変容する釈尊
8. " ③ 神変とマンダラ
9. この身のままで仏と成る ① 六大と人間
10. " ② 真理の表現
11. " ③ 心とマンダラ
12. 生死の意味 ① 因不可得
13. " ② 輪廻の生死から本不生へ
14. " ③ 「真に帰す」
15. まとめ — 〈私〉という存在—

### 準備学習(予習・復習)・時間

・授業で指示される文献等に目を通し、仏教用語や思想について事前に調べておく (60分) ・授業で配布されたプリントを読み、疑問や関心のある箇所について自分で調べる (60分)

### テキスト

・各回プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

①土居夏樹『はじめての「生と死から学ぶ」空海思想入門』、セルバ出版 ②竹村牧男『インド仏教の歴史』、講談社学術文庫 ③中村元『ブッダ伝』、角川文庫ソフィア ④小峰彌彦『図解曼荼羅入門』、角川文庫ソフィア ※その他、授業中に指示する。

### 学生に対する評価

授業内での積極的な発言 (40%)、期末レポート (60%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基礎的な仏教用語を習得している。
- (B) 仏陀観の変遷について説明ができる。
- (A) 大乘仏教から密教への展開を説明できる。
- (S) 上記 (C) ~ (A) を踏まえて、弘法大師の死生観の特徴を説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

各回の内容に関するリアクションペーパーを作成させ、コメントする。

### その他

・授業中に基礎的な用語についての質問をするので、必ず予習をして臨むこと。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学講読演習T						学期	前期	
副題	密教とスピリチュアルケア				授業方法	講義	担当者	森崎雅好	
ナンバリング	M3-10-091	実務経験の有無	有	関連DP	5	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

この講義では、密教の世界観をベースとしたスピリチュアルケアの援助論について講義をします。スピリチュアルケアが提唱されるようになった背景には、死について真剣に向き合おうとする臨床現場からの要請があったためです。病気だけでなく戦争、災害などで大切な人を喪うといった重大な危機的体験によって、私たちは生きることそのものに意味を見出すことができず、死を考えざるを得ない状況に追い込まれることもあります。この講義では、仏教・密教の教えに触れながら、「ケアすること」について考えたいと思います。

### 授業の到達目標

スピリチュアルケアの理解を深める。

### 授業計画

1. ガイダンス
2. 仏教の世界観
3. 密教の世界観
4. 喪失の悲しみ
5. 悲嘆の過程①
6. 悲嘆の過程②
7. 悲嘆の過程③
8. 悲嘆の過程④
9. 病とスピリチュアルケア①
10. 病とスピリチュアルケア②
11. 病とスピリチュアルケア③
12. 自殺防止とスピリチュアルケア①
13. 自殺防止とスピリチュアルケア②
14. 生死問題（安楽死と生殖医療）とスピリチュアルケア
15. まとめ

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、配付資料に目を通し、自身の疑問点、意見などを整理しておくこと（90分）、事後学習として授業で学んだ内容に関して復習をし、疑問点などが解消しているか確認をしておくこと（90分）

### テキスト

講師作成の講義プリントを配布する。

### 参考書・参考資料等

講義中に適宜紹介する。

### 学生に対する評価

レポート評価（100%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教・密教の世界観の基本的な知識を身につけている。
- (B) スピリチュアルケアを理解するための基本的な知識を身につけている。
- (A) 悲嘆の心理に関する知識を身につけた上でスピリチュアルケアの概念を理解している。
- (S) 現代の社会問題について、スピリチュアルケアの視点から捉えることができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。課題レポートには講師からのコメントを付し、返却を行う。

### その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

臨床心理士・公認心理師・スピリチュアルケア師（指導）として実務経験を持つ専任教員により、悲嘆の心理過程やその特徴についての講義を行い、また、自他の悲嘆体験を内省し受容するためのグループワーク演習を通じて、悲嘆を受け入れていく過程を支援するための姿勢や態度について身につけさせる。

科目名	密教学講読演習U					学期	後期		
副題	歴史資料からたどる真言宗の歴史				授業方法	講義	担当者	櫻木潤	
ナンバリング	M3-01-211	実務経験の有無	無	関連DP	1, 3, 5	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

弘法大師空海によって開宗された真言宗は、密教を教理とした日本独自の宗派である。空海は、高雄山寺（現在の神護寺）を皮切りに、高野山、東寺、東大寺、宮中真言院などを拠点として、真言宗を広める活動を展開し、それらは弟子たちに受け継がれた。本授業では、空海による開宗から初期の真言教団のあゆみについて、活動の拠点となった寺院を中心に、歴史資料を講読することを通じて、その背景を視野に入れながら考察する。

### 授業の到達目標

空海の著作や真言宗寺院に関する歴史資料を読み解くことを通じて、その社会的背景をふまえて、平安時代初期における真言宗のあゆみを理解することができる。

### 授業計画

1. 歴史学からみた空海の生涯①（講義）
2. 歴史学からみた空海の生涯②（講義）
3. 歴史学からみた空海の生涯③（講義）
4. 高野山の開創①（講読）
5. 高野山の開創②（講読）
6. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ①（講読）
7. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ②（講読）
8. 東寺の給預と真言宗寺院へのあゆみ③（講読）
9. 高雄山寺から神護寺へ①（講読）
10. 高雄山寺から神護寺へ②（講読）
11. 高雄山寺から神護寺へ③（講読）
12. 後七日御修法と宮中真言院①（講読）
13. 後七日御修法と宮中真言院②（講読）
14. 平安京周辺での真言宗寺院の展開（講義）
15. 寺院から考える真言宗の歴史（講義）

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：授業で取り上げる歴史資料について辞書等で用語・語句を調べる（90分） 事後学修：授業で取り上げた寺院や事項について調べる（60分）。

### テキスト

テキストは使用せず、歴史資料やレジュメをテーマごとに配布する。

### 参考書・参考資料等

平岡定海『日本寺院史の研究』（吉川弘文館、1981年）。吉川真司『天皇の歴史2 聖武天皇と仏都平城京』（講談社学術文庫、2018年）。その他、テーマごとの参考書や参考資料等は、授業中に紹介する。

### 学生に対する評価

予習・復習などを含めた授業への参加度（60%）と期末レポート（40%）によって評価する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 歴史資料を読むスキルを身につける。
- (B) 歴史資料を読み、その内容を理解する。
- (A) 真言宗寺院に関する歴史資料を読み解き、平安時代初期の真言宗のあゆみを説明できる。
- (S) 平安時代初期の真言宗のあゆみについて、社会的背景をふまえて考察することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。①漢文の歴史資料を取り上げることがある。②受講生の関心によって、授業で取り上げた寺院や関連する場所を実際に訪れ、「歴史を体感する」機会を設けてもらいたい。

科目名	仏教学講読演習S					学期	後期	
副題	釈尊伝を読む				授業方法	講義	担当者	前谷彰
ナンバリング	M3-02-212	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 A

### 授業の目的と概要

『法華経』を梵・漢対照でその比喻形態に着目して読みこみ、『法華経』の思想的特徴について考察し、理解する。

### 授業の到達目標

諸経の王と呼ばれて来た初期大乘経典の代表格である『法華経』を講読することによって、サンスクリット語の読解能力を身に付け、仏教（密教）の思想を広く深い視野で考究することができるようになる。

### 授業計画

- 『法華経』「授記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（声聞不成仏の問題）
- 『法華経』「授記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（大迦葉への授記）
- 『法華経』「化城譬品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（大通地勝仏の出現）
- 『法華経』「化城譬品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（化城の喩え）
- 『法華経』「五百弟子受記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（富楼那の出現）
- 『法華経』「五百弟子受記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（無明の酒）
- 『法華経』「授学無学人記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（ラーフラの登場）
- 『法華経』「授学無学人記品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（迹門の法説）
- 『法華経』「法師品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（法師による教説）
- 『法華経』「法師品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（乾土の喩え）
- 『法華経』「見宝塔品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（宝塔出現）
- 『法華経』「見宝塔品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（法身・応身の融合）
- 『法華経』「提婆品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（畜生龍女の成仏）
- 『法華経』「勸持品」で、どのような比喻が用いられているかを探究する。（弘教の誓い）
- 上記の品以外で、重要な比喻が用いられている品を探す。

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として『法華経』の梵文テキストと漢訳とを照合し、梵文和訳の予習をする。（最低週に延べ300分）。事後学修として授業で学んだことを復習する（120分）

### テキスト

担当者がコピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

梵文テキストは担当者が用意する。その他、詳細については、授業で支持する。

### 学生に対する評価

学期末のレポート（70%）と、授業時の意欲や問題意識をどれだけ持っているか（30%）によって評価する。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業目標の必要最低限度の条件を満たしている。
- (B) 『法華経』の基本的な成立背景に関する知識を持っている。
- (A) 仏教の基礎語彙を歴史の流れに沿って説明できる。
- (S) 梵・漢対照の基本的な文献学的方法論を身に付けている。

### 課題に対するフィードバックの方法

フィードバックの方法は授業の中で指示する。

### その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学講読演習U					学期	後期		
副題	『感身学正記』と叡尊関係史料を読む				授業方法	講義	担当者	坂口太郎	
ナンバリング	M3-12-213	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

本演習では、鎌倉後期において戒律復興と密教興隆に尽力した、西大寺叡尊の自伝『感身学正記』とその関係史料を読解する(史跡見学も実施)。とくに、本年度は、弘安7年(1284)に叡尊が畿内で展開した宗教活動や、叡尊と貴族・武士との関係について理解を深める。受講者は、担当箇所について関係史料・論文を調査し、資料を作成することで、研究能力を練磨することが課題となる。なお、演習の性格上、「授業計画」はあくまでも目安に過ぎず、演習中の解釈・討論の進捗や受講生の理解度によって変ることがありうる。あらかじめ了承されたい。

### 授業の到達目標

①鎌倉後期における叡尊の宗教活動を、史料に即して理解できるようになる。②鎌倉後期における公武両政権の宗教政策を通して、同時期の時代相を考える視座をつちかう。③仏教史料の持つ歴史的価値について、学問的に理解できるようになる。

### 授業計画

- 『感身学正記』の概要、講義の進め方、文献探索の方法
- 『感身学正記』を読む①(弘安7年条)
- 『感身学正記』を読む②(弘安7年条)
- 『感身学正記』を読む③(弘安7年条)
- 『感身学正記』を読む④(弘安7年条)
- 『感身学正記』を読む⑤(弘安7年条)
- 『感身学正記』を読む⑥(弘安7年条)
- 『感身学正記』を読む⑦(弘安7年条)
- 『感身学正記』を読む⑧(弘安7年条)
- 『感身学正記』を読む⑨(弘安7年条)
- 『感身学正記』を読む⑩(弘安7年条)
- 『感身学正記』を読む⑪(弘安7年条)
- 叡尊関係の史跡見学①
- 叡尊関係の史跡見学②
- 叡尊関係の史跡見学③

### 準備学習(予習・復習)・時間

【予習】事前学習として、参考書・関係論文を参照し、少しでも充実した予習をできるように努力すること(120分)【復習】報告中に教員から受けたコメントや、討論の要点をノートに整理すること(60分)

### テキスト

①『感身学正記』本文のプリント(第1回の講義で配布する)。②細川涼一『感身学正記』第2巻(平凡社東洋文庫、2020年)(書店などで購入。必ず講義に持参すること)③受講生が作成する報告資料(成績評価の対象となるので、綿密な準備に基づいて用意すること)

### 参考書・参考資料等

①和島芳男『叡尊・忍性』(吉川弘文館、1959年)②長谷川誠注解・訳『興正菩薩御教誠聴聞集・金剛仏子叡尊感身学正記』全4冊(西大寺、1990年)③奈良国立博物館編『興正菩薩叡尊』(奈良国立博物館、2001年)④松尾剛次編『持戒の聖者 叡尊・忍性』(吉川弘文館、2004年)

### 学生に対する評価

レポート(70%)、講義中での報告(30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)『感身学正記』に関する基礎的事項を理解している。  
(B)『感身学正記』の史的価値について、講義内容を踏まえて説明できる。  
(A)『感身学正記』と叡尊について、仏教史・政治史の双方の視角から説明することができる。  
(S)『感身学正記』および叡尊について、独自の調査に基づいて独創的な指摘を行なうことができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

演習において学生が作成した資料の内容については、講義中もしくは講義後にアドバイスをなう。レポートについては、課題設定や執筆にむけて適宜助言し、提出後に講評する。

### その他

①本演習は、受講生に適宜報告を課すアクティブ・ラーニングであるので、参考書や講義で紹介する論著を読んで、資料を作成すること。②受講者は、「歴史学」も履修しておくこと。③本演習では、3回分の時間を史跡見学にあてる予定である(土曜日もしくは日曜日を予定。この日程は受講生と相談した上で決定する)。

科目名	仏教学講読演習V						学期	前期	
副題	仏伝				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M3-02-095	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

仏教の開祖であるゴータマ・ブッダの伝記（仏伝）を扱う書物は、一般向けのものから専門的なものまで枚挙に暇がないが、その典拠となる資料の扱い方によって叙述の仕方は異なってくる。パーリ語・サンスクリット語・チベット語訳・漢訳などのかたちで部派に伝承される様々な仏伝資料について概観した上で、特徴的なエピソードを現代語訳で輪読し、各仏伝資料における基本的な用語やエピソードに関する知識を得るとともに、資料を批判的に検討する姿勢を身につけてゆく。

### 授業の到達目標

各仏伝資料における基本的な用語を理解し、仏伝資料を読解できる。各仏伝資料の特徴や仏伝資料の各エピソードについて、概括的に自分の言葉で説明できる。

### 授業計画

1. オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2. 仏伝とは何か—伝説と伝記・仏伝の大枠—
3. 初期仏教から部派仏教における聖典の伝承—結集と三蔵—
4. 初期仏教における仏伝①：単独経典『スッタニパータ』
5. 初期仏教における仏伝②：単独経典『サンユッタ・ニカーヤ』
6. 初期仏教における仏伝③：単独経典『アングッタラ・ニカーヤ』・『聖求経』
7. 仏伝の基本聖典①：『律蔵』「小品」①第1節～第5節
8. 仏伝の基本聖典①：『律蔵』「小品」②第6節
9. 仏伝の基本聖典①：『律蔵』「小品」③第7節～第11節
10. 仏伝の基本聖典①：『律蔵』「小品」④第12節～第13節
11. 仏伝の基本聖典①：『律蔵』「小品」⑤第14節～第15節
12. 仏伝の基本聖典②：『大般涅槃経』①第1節～第5節
13. 仏伝の基本聖典②：『大般涅槃経』②第6節～第15節
14. 仏陀の前世物語：『ジャータカ』
15. 授業の総括とレポートの講評

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次回に講読する範囲の資料を読み、必要に応じて配布される一次資料や補助資料にも目を通しておくこと（100分）。事後学習として、自分のノートやメモを見返し、専門用語や必要事項を覚えておくこと（80分）。

### テキスト

担当者がコピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

①谷川泰教『ブッダの伝記—その資料と解釈—（増補版）』高野山大学通信教育室、2008、②③積尊伝研究会『積尊および積尊教団形成史年表』『積尊の生涯にそって配列した事績別原始仏教聖典総覧』中央学術研究所、2019、④中村元編著『新編ブッダの世界』学習研究社、2000。他は授業中に紹介する。

### 学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 各仏伝資料における基本的な用語を理解している。
- (B) 現代語訳された仏伝資料を辞書などの工具を駆使して精読できる。
- (A) 精読した仏伝資料の内容を理解している。
- (S) 各仏伝資料の特徴や仏伝資料の各エピソードについて概括的に説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出された期末レポートについて、フィードバックを行う。

### その他

現代語訳された仏伝資料の輪読を中心に受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。授業には予習ノートと授業中に配布したプリントを持参されたい。

科目名	仏教学講読演習W						学期	後期	
副題	仏伝の展開				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M3-02-096	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2, 4	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

部派に伝承される仏伝資料の内容を前提として、サンスクリット語・チベット語訳・漢訳などのかたちで伝承される、大乘や密教における様々な仏伝資料について概観した上で、特徴的なエピソードを現代語訳で輪読し、大乘や密教への仏伝の展開に関する知識を得て、資料を批判的に検討する姿勢を身につけてゆくとともに、チベット仏教といった他地域やキリスト教といった他宗教、さらには聖地巡礼や文学など他文化への仏伝の展開について広い視野を獲得する。

### 授業の到達目標

各仏伝資料における基本的な用語を理解し、仏伝資料を読解できる。大乘や密教、他の地域・宗教・文化への仏伝の展開について、概括的に自分の言葉で説明できる。

### 授業計画

1. オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2. 大乘における仏伝①：仏伝としての大乗経典
3. 大乘における仏伝②：『ラリタヴィスタラ』・『首楞嚴三昧経』
4. 大乘における仏伝③：『法華経』・『華嚴経』「入法界品」
5. 大乘における仏伝④：『世間随順経』・『大智度論』
6. 密教における仏伝①：纒発心転法輪菩薩
7. 密教における仏伝②：五相成身観をめぐる展開①—一般涅槃と成道—
8. 密教における仏伝③：五相成身観をめぐる展開②—十二支縁起と五相成身観—
9. チベット仏教における仏伝
10. キリスト教における仏伝
11. 聖地巡礼と仏伝：『ディヴィヤ・アヴァダーナ』
12. 文学と仏伝：ヘルマン・ヘッセ『シッダールタ』
13. サブカルと仏伝：手塚治虫『ブッダ』・中村光『聖☆おにいさん』
14. 映画と仏伝：『リトル・ブッダ』
15. 授業の総括とレポートの講評

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、次回に講読する範囲の資料を読み、必要に応じて配布される一次資料や補助資料にも目を通しておくこと（100分）。事後学習として、自分のノートやメモを見返し、専門用語や必要事項を覚えておくこと（80分）。

### テキスト

担当者がコピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

- ①谷川泰教『ブッダの伝記—その資料と解釈—（増補版）』高野山大学通信教育室、2008、②平岡聡『大乘経典の誕生—仏伝の再解釈でよみがえるブッダ—』筑摩書房、2015、③田中公明『性と死の密教』春秋社、1997、④小峯和明編『東アジアの仏伝文学』勉誠出版、2017。他は授業中に紹介する。

### 学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 各仏伝資料における基本的な用語を理解している。
- (B) 現代語訳された仏伝資料を辞書などの工具を駆使して精読できる。
- (A) 精読した仏伝資料の内容を理解している。
- (S) 大乘や密教、他の地域・宗教・文化への仏伝の展開について概括的に説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出された期末レポートについて、フィードバックを行う。

### その他

現代語訳された仏伝資料の輪読を中心に受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。授業には予習ノートと授業中に配布したプリントを持参されたい。

科目名	密教学演習S					学期	通年	
副題	卒業研究指導				授業方法	演習	担当者	櫻木潤
ナンバリング	M3-25-215	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他 A

### 授業の目的と概要

密教文化コースの学生を対象に、学問することの楽しさと、学問するためのスキルを身につけるための演習を行う。学問のおもしろさは、インプット（疑問→調べる）とアウトプット（発見→書く）、すなわち「学び問う」のループの中で、「多様なものの見方」を身につけて「自分とは何か」を思索することにある。前期はインプットするためのスキルを主に講義形式によって解説し、後期はアウトプットするためのスキルを演習（発表とディスカッション）形式で身につけ、卒業研究への模索を行う。

### 授業の到達目標

学問の楽しさとそのスキルを身につけ、各自の研究課題を見出して、卒業研究を作成する力を養う。

### 授業計画

#### 【前期】

1. 演習の進め方・担当者の自己紹介（講義）
2. 「学問を楽しむ」とは？（講義）
3. アウトプットするために一論文とレポート（講義）
4. アウトプットするためのルールを身につける①（研究テーマの設定）（講義）
5. アウトプットするためのルールを身につける②（学術的文章の構成）（講義）
6. アウトプットするためのルールを身につける③（序論の内容と書き方）（講義）
7. アウトプットするためのルールを身につける④（本論の内容と書き方）（講義）
8. アウトプットするためのルールを身につける⑤（結論の内容と書き方）（講義）
9. アウトプットするためのルールを身につける⑥（注・引用の書き方）（講義）
10. 調べる技術を身につける①（調べるとは？）（講義）
11. 調べる技術を身につける②（文献・資料の調べ方）（講義）
12. 調べる技術を身につける③（雑誌等・論文の調べ方）（講義）
13. 調べる技術を身につける④（フィールドワークの調べ方）（講義）
14. 調べる技術を身につける⑤（アンケート調査の調べ方）（講義）
15. 前期のまとめ（講義）

#### 【後期】

1. 夏休みの成果の発表①（演習）
2. 夏休みの成果の発表②（演習）
3. クリティカルリーディングとその方法①（講義）
4. クリティカルリーディングとその方法②（講義）
5. クリティカルリーディングとその方法③（講義）
6. 文献を要約し、批判的に検討する①（演習）
7. 文献を要約し、批判的に検討する②（演習）
8. 文献を要約し、批判的に検討する③（演習）
9. 文献を要約し、批判的に検討する④（演習）
10. 文献を要約し、批判的に検討する⑤（演習）
11. 文献を要約し、批判的に検討する⑥（演習）
12. 文献を要約し、批判的に検討する⑦（演習）
13. 文献を要約し、批判的に検討する⑧（演習）
14. 卒業研究に向けた模索①（演習）
15. 卒業研究に向けた模索②（演習）

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修：事前に配信されたレジュメなどを熟読する（90分）、事後学修：授業内容についてふりかえりながら整理し、質問や感想をコメントとして提出する（60分）。

### テキスト

前期は、河野哲也『レポート・論文の書き方入門 第4版』（慶應義塾大学出版会、2018年）と宮内泰介・上田昌文『実践 自分で調べる技術』（岩波新書 [新赤版1853]、2020年）をテキストとする（大型書店やネット書店で購入）。後期は、受講者と相談してテキストを定める。

### 参考書・参考資料等

授業テーマや受講生の関心にしたがって、随時紹介する。

### 学生に対する評価

①授業など演習に関連する行事などへの参加度（60%）・期末レポート（40%）によって評価する。②全授業の3分の2以上（10回以上）に出席した者のみを成績評価の対象とする。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 学問を楽しみ、学問するためのインプットの技法を身につける。
- (B) 学問するためのインプットの技法を身につけ、アウトプットのルールを理解する。
- (A) 学問するためのアウトプットのルールを理解し、実践することができる。
- (S) 卒業研究のテーマを見出し、その取り組みについて模索する。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。受講生の希望があれば、授業以外にも現地見学会など受講生相互の交流を図る機会を設けたい。

科目名	密教学演習T					学期	通年		
副題	卒業研究指導・不空三蔵と弘法大師とを読む				授業方法	演習	担当者	菊谷竜太	
ナンバリング	M3-25-216	実務経験の有無	無	関連DP	1, 4	単位数	4	他	A

### 授業の目的と概要

弘法大師空海による『御請来目録』は単なるカタログにとどまらず平安初期における一種の知的ネットワークの形成基盤とも目されている。また不空三蔵撰の『金剛頂経瑜伽十八会指帰』はインド・中国・日本における「金剛頂経」系の密教の流伝と受容に大きな役割を果たし、我が国における仏教思想にも近代に至るまで大きな影響を与えた。この講座ではこれら二つの漢文テキストの精読を通じて、仏教文献を読むうえでの基本的な文献学的知識を押さえるとともに学習ツールとしての人文情報学（DH）の基礎知識を学ぶ。

### 授業の到達目標

1、仏教文献講読に不可欠な文献学的手法を学ぶ。 2、仏教学と人文情報学のアプローチを駆使して理解する。 3、問題点と解決の方向性を思考し論述することができる。

### 授業計画

#### 【前期】

1. ガイダンスならびに前期授業の概要説明
2. 資料概観① インド密教における「十八会指帰」の位置
3. 資料概観② 知的基盤としての『御請来目録』
4. 論文指導①
5. 『御請来目録』精読①
6. 『御請来目録』精読②
7. 『御請来目録』精読③
8. 論文指導②
9. 『御請来目録』精読④
10. 『御請来目録』精読⑤
11. 『御請来目録』精読⑥
12. 論文指導③
13. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読①
14. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読②
15. 論文指導④

#### 【後期】

1. ガイダンスならびに後期授業の概要説明
2. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読③
3. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読④
4. 論文指導⑤
5. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑤
6. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑥
7. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑦
8. 論文指導⑥
9. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑧
10. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑨
11. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑩
12. 論文指導⑦
13. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑪
14. 『金剛頂経瑜伽十八会指帰』精読⑫
15. 論文指導⑧

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として次回に読む範囲のテキストならびに対応する現代語訳とを対照し翻訳しておくこと（120分）。事後学習として自分のノートを読み直し、必要事項を覚えておくこと（60分）。

### テキスト

一次資料・関連文献については担当者がPDFを配布する。

### 参考書・参考資料等

①高木神元「御請来目録」『日本名僧論集』3、東京・吉川弘文館1982、②甲田宥咩「『御請来目録』の書誌学的研究」『高野山大学密教文化研究所紀要』4、1991年、③奥山直司「十八会指帰」校註『新国訳大蔵経 密教部4』東京・大蔵出版、2004年。

### 学生に対する評価

ミニツペーパーならびに論文指導における検討会発表（30%）、学期末レポート（70%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 古典読解のために必要とされる最低限の文献学的手順を踏まえている。
- (B) 一次資料と二次資料との取り扱いに注意して国内外の研究動向を押さえることができている。
- (A) 文献読解に必要な工具類と人文情報学（DH）の技術を活用することができる。
- (S) 学術論文の基本的な書き方を習得している。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

授業のおわりに毎回ミニツペーパーの提出を求める。基本的な漢文読解の知識をもつことが望ましい。サンスクリット語・チベット語の履修を必ずしも必要とするものではないが、インド密教に興味がある受講生の積極的参加を求めるアクティブ・ラーニングである。

科目名	密教学演習U					学期	通年	
副題	卒業研究指導				授業方法	演習	担当者	土居夏樹
ナンバリング	M3-25-217	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他 A

### 授業の目的と概要

卒業研究を希望する学生のための演習である。現代社会における諸問題に、仏教や密教、そして空海の思想はどのように向き合うことができるのか？その可能性を、関連する先行研究や原典資料を通して探り、現代における諸問題において密教の思想がどのように活用し得るのかについて考察する。

### 授業の到達目標

1) 現代社会の諸問題について、仏教・密教の思想を資料に基づいて考え、表現することができるようになる。 2) 自分の考えをまとめて発表し、議論することができるようになる。

### 授業計画

#### 【前期】

1. ガイダンスと前期のイントロダクション
2. 卒業研究指導①—テーマを設定する—
3. 卒業研究指導②—資料を探す—
4. 卒業研究指導③—資料を読む（前編）—
5. 卒業研究指導④—資料を読む（後編）—
6. 卒業研究指導⑤—構成を考える—
7. 密教と生命倫理①—レクチャー（前編）
8. 密教と生命倫理②—レクチャー（後編）
9. 密教と生命倫理③—ディスカッション—
10. 密教と生命倫理④—議論をまとめる—
11. 密教と経営①—レクチャー（前編）—
12. 密教と経営②—レクチャー（後編）—
13. 密教と経営③—ディスカッション—
14. 密教と経営④—議論をまとめる—
15. 前期の振り返りと課題の講評

#### 【後期】

1. ガイダンスと後期のイントロダクション
2. 密教文化の諸相①—レクチャー（前編）—
3. 密教文化の諸相②—レクチャー（後編）—
4. 密教文化の諸相③—ディスカッション—
5. 密教文化の諸相④—議論をまとめる—
6. 密教と現代スピリチュアリズム①—レクチャー（前編）—
7. 密教と現代スピリチュアリズム②—レクチャー（後編）—
8. 密教と現代スピリチュアリズム③—ディスカッション—
9. 密教と現代スピリチュアリズム④—議論をまとめる—
10. 研究発表①
11. 研究発表②
12. 研究発表③
13. 研究発表④
14. 研究発表⑤
15. 後期の振り返り

### 準備学習(予習・復習)・時間

各回のテーマに関する予習（60分）

### テキスト

授業中にプリントを配布する

### 参考書・参考資料等

・竹村牧男『インド仏教の歴史—覚りと空—』（講談社学術文庫） ・立川武蔵『空の思想史』（講談社学術文庫） ※その他、授業中に指示する。

### 学生に対する評価

各回の課題学習（25%）、長期休暇中の課題（25%）、年度末の研究発表（50%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 資料を踏まえた課題を設定できる。
- (B) 上記 (C) に関する2次資料の見解を要約し、さらなる独自の課題を設定できる。
- (A) 上記 (B) を踏まえ、1次資料を使って自分の考えを説明できる。
- (S) 上記 (A) ~ (C) を踏まえ、論理的な主張を学術論文として展開できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の課題提出時に評価点・問題点を講評する。

### その他

・受講生の関心に応じて、授業内容・テーマ等を変更する場合がある。 ・担当者を決めて、該当内容に関する発表をしてもらう。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	総合科目(仏教入門ⅠS)					学期	前期	
副題	仏教の基礎-戒を中心として-				授業方法	講義	担当者	テゾン・ウセル
ナンバリング	G1-02-218	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 A

### 授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者から、仏教の基礎を一から学ぶ。

### 授業の到達目標

チベット語経典を通じて四大学派の禅定と空と縁起に関する知識を修得し、仏教の基本的な教義への理解を深めることができる。

### 授業計画

1. 授業の内容について説明
2. 釈尊の十二相について
3. 仏教とは、何のためにあるのか。一般的な仏教について
4. 仏教徒と外道（非仏教徒）との区別と三宝について①
5. 仏教徒と外道（非仏教徒）との区別と三宝について②
6. 前世と来世の有無について
7. 全ての仏教徒が守るべき十善戒について
8. 四つの修行の力による罪を浄める方法について
9. 戒律① 別解脱戒（在家と沙弥と比丘の戒律）について
10. 戒律② 菩薩戒について
11. 戒律③ 三昧耶戒について
12. 瞑想（止の瞑想と観の瞑想）の区別について
13. 止の瞑想について
14. 観の瞑想について
15. 講義内容の総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）、事後学修として習ったことを暗記する（90分）。

### テキスト

担当者が作成したものを配布する。

### 参考書・参考資料等

教室で指示する。

### 学生に対する評価

レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
- (B) 仏教の教えの概要を説明できる。
- (A) 仏教の教えを詳しく説明できる。
- (S) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつ重要な仏教思想の要点を理解している。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

### その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	総合科目(仏教入門ⅡS)						学期	後期	
副題	仏教の基礎-般若心経を中心として-				授業方法	講義	担当者	テゾン・ウセル	
ナンバリング	G1-02-219	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

チベット仏教ゲルク派の最高学位取得者（ゲシェー・ハランパ）である担当者から、仏教の基礎を一から学ぶ。

### 授業の到達目標

四大学派の二諦説と般若心経に関する基礎知識を修得し、仏教の教義についての理解を深めることができる。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 『般若心経』「観自在菩薩」～ 慈悲の心と菩提心について①
3. 『般若心経』「観自在菩薩」～ 慈悲の心と菩提心について②
4. 『般若心経』「色不異空色不異空」～ 中観の空について①
5. 『般若心経』「色不異空色不異空」～ 中観の空について②
6. 『般若心経』「無色無受想行識」～ 五蘊と六根と十二処について
7. 『般若心経』「無眼界」～ 十八界について
8. 『般若心経』「無無明」～ 十二縁起について
9. 『般若心経』「無苦集滅道」～ 四聖諦について①
10. 『般若心経』「無苦集滅道」～ 四聖諦について②
11. 『般若心経』「三世諸仏」～ 悟りの道（五道）について
12. 「六波羅蜜」について
13. 『三十七偈の菩薩の實踐』を読む①
14. 『三十七偈の菩薩の實踐』を読む②
15. 講義内容の総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として配布資料を読んで覚える（90分）。事後学修として習ったことを暗記し自分のものにする（90分）。

### テキスト

担当者が作成したものを配布する。

### 参考書・参考資料等

教室で指示する。

### 学生に対する評価

期末レポート（60%）、授業参加の積極性（40%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 授業で取り上げた仏教用語を説明できる。
- (B) 仏教の教えの概要を説明できる。
- (A) 仏教の教えを詳しく説明できる。
- (S) 仏教の教えを詳しく説明でき、かつ重要な仏教思想の要点を理解している。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

### その他

併せてチベット語を取ることが望ましい。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	企画科目(仏画S)						学期	通年	
副題	仏画				授業方法	実技	担当者	徐東軍	
ナンバリング	G1-02-221	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

紙本の仏画制作の技法を基礎から勉強し、白描画と顔料による彩色画の手法で仏・菩薩・明王・天部などの姿を描く。密教の曼荼羅を構成する多様な尊像に関する知識を学び、仏教の世界観についての理解を深める。

### 授業の到達目標

仏画の描き方を身につけ、仏教の諸尊や仏教美術についての理解を深める。

### 授業計画

#### 【前期】

1. 講義内容の説明(授業の進め方、道具と実例作品の紹介など)
2. 基礎 1 基本用語の説明、手足・衣紋線の描き方
3. 基礎 2 面相・頭部の描き方
4. 基礎 3 瓔珞・持ち物・円・直線の描き方
5. 基礎 4 蓮華座・岩座・雲の描き方
6. 基礎 5 墨の濃淡と線の強弱を使い分ける練習(1)
7. 基礎 6 墨の濃淡と線の強弱を使い分ける練習(2)
8. 作品制作 白描の作品を描く(1)
9. 作品制作 白描の作品を描く(2)
10. 作品制作 白描の作品を描く(3)
11. 作品制作 紺紙金泥の作品を描く(1)
12. 作品制作 紺紙金泥の作品を描く(2)
13. 作品制作 紺紙金泥の作品を描く(3)
14. 作品制作 紺紙金泥の作品を描く(4)
15. 作品の講評

#### 【後期】

1. 基礎 1 絵具の作り方、平塗りの技法(厚塗り・薄塗り)
2. 基礎 2 手足・蓮華の描き方、ぼかしの技法
3. 基礎 3 混色と縹縹彩色(1)
4. 基礎 4 混色と縹縹彩色(2)
5. 高野山霊宝館と大学図書館への現地見学
6. 基礎 5 仏・菩薩の面相の描き方(照り隈)
7. 基礎 6 仏・菩薩の面相の描き方(唇・ひげ・眉)
8. 基礎 7 仏・菩薩の面相の描き方(目)
9. 基礎 8 仏・菩薩の面相の描き方(髪・頭光)
10. 作品制作 彩色仏画(1)
11. 作品制作 彩色仏画(2)
12. 作品制作 彩色仏画(3)
13. 作品制作 彩色仏画(4)
14. 作品制作 彩色仏画(5)
15. 作品の講評

### 準備学習(予習・復習)・時間

事後学習として、講義で学んだ技法に関して練習をしておくこと。(60分)

### テキスト

書写手本及び関係資料はコピーを配布する。

### 参考書・参考資料等

- ①楽詩舎藤野正観『仏画 淡彩色集』(株式会社TOLLOT、2013年) ②楽詩舎藤野正観『悠久の時をこえてよみがえる祈りの絵画①』(大津紙業写真印刷株式会社、2020年) ③中村幸真・中村涼應『模写で描く仏画入門』(日本放送出版協会、1991年) ④中村涼應・中村幸真『模写で描く彩色仏画入門』(日本放送出版協会、2000年) ⑤東京藝術大学大学院文化財保存学日本画研究室編『図解日本画用語事典』(株式会社東京美術、2007年)

### 学生に対する評価

毎回の授業の書写作品(70%) 授業参加への積極性(30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏画の基本事項を理解できる。  
 (B) 仏画の基本事項を理解し、それを描写することができる。  
 (A) 仏教や仏画に関することを理解し、完成度の高い作品を描ける。  
 (S) 仏教や仏画に関することを理解し、尊像への理解とその表現が優れている。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、授業内で対応する。

### その他

受講生は年間を通して使用する面相筆・彩色筆・紙を購入する(用具の発注は担当者が行う)。墨・硯・筆洗・雑巾・日本画絵具は受講生が各自で用意すること。梅皿・念紙・金泥などの用具・資材は担当者が貸与する。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。なお、過去に本講義の単位を取得したことがある受講生に対しては、和紙のほかに、木板と絵絹の上で描く仏画の技法を紹介する。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

仏画工房で国宝の曼荼羅の復元制作に携わった経験のある担当者が、その経験を活かし、仏像の基本知識に基づいた仏画制作の技術について講義する。

科目名	企画科目(高野山の歴史と文化S)						学期	後期	
副題	高野山の歴史と文化				授業方法	講義	担当者	木下智雄	
ナンバリング	G1-01-113	実務経験の有無	有	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

高野山は、西暦816年(弘仁7年)に嵯峨天皇より賜り、1200年以上経た今でも、世界文化遺産の聖地として広く知られている。しかし、今でも高野山の街並みは変化しつづけており、その長い歴史に直接触れることは難しい。そこで、現代から歴史を遡りながら、町の変遷や文化・歴史的人物を学ぶことで、時代毎に特質があることを理解する。

### 授業の到達目標

・高野山の歴史・文化についての参考書を読み上げることができ、用語の説明ができる。 ・金剛峯寺境内案内人の資格試験に合格できる。 ・『紀伊続風土記』等の読解ができ、根拠となる資料が確認できる。

### 授業計画

1. 概論(講義の進め方、参考文献紹介等)と予習方法について
2. 世界遺産としての高野山—「紀伊山地の霊場と参詣道」—
3. 大師信仰の聖地としての高野山—大師信仰の宣揚と四国通路—
4. 近代国家としての高野山①—学校の設立と文化財の保護—
5. 近代国家としての高野山②—女人禁制の解禁と商業—
6. 幕藩体制の中の高野山①—学道の隆盛と宝寿二門—
7. 幕藩体制の中の高野山②—元禄聖断と衆行争論—
8. 幕藩体制の中の高野山③—蓮華三昧院頼慶と徳川家康—
9. 荘園領主としての高野山①—木食心其と豊臣秀吉—
10. 荘園領主としての高野山②—高野聖と織田信長—
11. 荘園領主としての高野山③—宥快法印と足利義満—
12. 浄土としての高野山①—勸進と町石道—
13. 浄土としての高野山②—血曼荼羅と『平家物語』—
14. 浄土としての高野山③—覚鑿上人と鳥羽上皇—
15. 浄土としての高野山④—小野仁海と藤原道長—

### 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、指定した参考文献に目を通し(60分)、専門用語を事前に調べるなどしての意味を理解しておくこと。(30分) ・事後学習として授業で学んだ内容に関して、疑問点をとりまとめ、講義で紹介した論文に目を通すこと。(90分)

### テキスト

講師が配布資料を用意する。 松長有慶『高野山』、岩波新書、2014年も併用する。

### 参考書・参考資料等

・木下浩良『高野山の歴史と文化』高野山出版社 ・山陰 加春夫『歴史の旅 中世の高野山を歩く』吉川弘文館 ・高野山金剛峰寺記念大法会事務局『高野山千百年史』 ・『紀伊続風土記』(『続真言宗全書』36.37巻) ※その他、適時講義中に紹介する。

### 学生に対する評価

期末レポート(60%)、講義参加の積極性(40%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 高野山の歴史・文化について、参考書を読み上げることができる。  
(B) 高野山の歴史・文化について、未知の語彙を調べ、用語の説明ができる。  
(A) 高野山の歴史・文化について、『紀伊続風土記』等から、資料の裏付がとれる。  
(S) 高野山の歴史・文化について、由来を端的に過不足なくまとめ、説明することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

・本講義は金剛峯寺境内案内人資格試験(12月頃)の受験を推奨するが、対策等は別途行う。 ・用語の意味など、講義中回答してもらっているので、必ずテキストは一読してくること。 ・わからない語彙は、調べる癖をつけること。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

高野山真言宗の僧侶であり真言宗寺院の副住職である教員が、僧侶としての教養の布教について、高野山の歴史・文化を通じて、周辺分野の見識の重要性を認識させる。

科目名	企画科目(仏教美術入門S)					学期	前期		
副題	仏教美術史入門				授業方法	講義	担当者	内藤栄	
ナンバリング	G1-02-220	実務経験の有無	有	関連DP	3	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

仏教美術の成立と特徴について考察する。インドにおける仏教美術の成立過程から始め、中国、朝鮮半島を経て日本に伝播した仏教美術の諸相を概観し、飛鳥時代から鎌倉時代にいたる日本仏教美術史を考える。一般的に知られている仏像、仏画のほか、仏教工芸、仏教考古、建築にも興味を範囲を広げる。そのうえで仏教美術を理解する上で必要な基礎知識、仏像の図像、素材と制作技法、時代性、国ごとの特徴、様式、文献資料や経典・儀軌などを学び、自主的に鑑賞する興味と能力を身に付ける。

### 授業の到達目標

仏教美術に興味を持ち、自主的に鑑賞する習慣を身に付ける。そのうえで、仏教美術の基礎を習得し、仏像や仏画を見た時に尊像名や時代性を判断できることを目指す。

### 授業計画

1. 仏教美術の成立（インド文化圏のストゥーパと舎利容器）
2. 仏像の誕生（インドとパキスタンの仏像）
3. 仏教の伝播と仏教美術の広がり（北伝仏教と南伝仏教の美術）
4. 飛鳥時代前期の美術（仏教公伝から7世紀半ばまで。法隆寺の美術を中心に学ぶ）
5. 飛鳥時代後期（白鳳期）の仏教美術（7世紀半ばから710年まで。白鳳美術の復権を考える）
6. 奈良時代の仏教美術 1（興福寺と東大寺三月堂の美術）
7. 奈良時代の仏教美術 2（唐招提寺、西大寺を中心に）
8. 正倉院宝物概説（正倉院宝物を仏教美術なのか、生活の美なのかを考える）
9. 奈良時代の密教美術（空海が学んだ古密教の世界の美術を考える）
10. 後七日御修法と仏歯供養（空海の舎利信仰の国際性を考え、スリランカの仏歯供養との親近性を考える）
11. 浄土教の美術（平安時代以降の日本人の心をとらえた浄土信仰について、美術作品を通して考える）
12. 神仏習合の美術（神道と習合したことで生み出された仏教美術について考える）
13. 平安時代から鎌倉時代（1180年の南都焼討が変えた仏教美術の諸相について考える）
14. 密教美術 彫刻（東寺、高野山、醍醐寺などに伝わる密教彫刻の特徴を考える）
15. 密教美術 絵画（曼荼羅をはじめとする密教絵画の特徴を考える）

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前に授業範囲の美術作品について、美術全集や展覧会図録で主要な作品を把握しておくこと。また、授業後に寺院や博物館を訪問し、実際の作品を鑑賞することも重要である。高野山、関西という恵まれた場所で学ぶことを最大限活用してほしい。

### テキスト

・『寧楽遺文 中巻 宗教編・経済編上』（東京堂出版、昭和37年） ・『校刊美術史料 寺院編 上中下』（中央公論美術出版、昭和47年）

### 参考書・参考資料等

・ペック『仏教(上)』（岩波文庫）・高田修『仏像の誕生』（岩波新書、昭和62年） ・佐和隆研編『仏像図典』（吉川弘文館、昭和37年）・『古密教—日本密教の胎動』（奈良国立博物館展覧会図録、平成17年）・内藤栄『舎利荘厳美術の研究』（青史出版、平成22年）

### 学生に対する評価

出席50% レポート50%

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C)・仏教美術における基本的な作品に対する知識を習得している。
- (B)・仏教美術に興味を持ち、自ら進んで鑑賞の機会を持つようになる。
- (A)・仏教美術の作品に関する知識に加え、文献資料や経典に関する知識を持っている。
- (S)・仏教美術に関して独自の見解を持ち、文献資料や経典を用いて自説を展開することができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

・寺院や博物館において作品を目の前にして学生同士で語り合う。それにより学生の理解度を知り、教員よりコメントをする。

### その他

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

・美術館と博物館で30年以上勤務しており、そのうち仏教美術を専門とする奈良国立博物館において26年、大阪市立美術館で2年勤務している。実際に美術品を扱ってきた経験と知識、さらに近年急速に進化した科学的調査などの最新情報を授業に盛り込む。

科目名	企画科目(マインドフルネスS)						学期	前期	
副題	マインドフルネス				授業方法	講義	担当者	山本和美	
ナンバリング	M1-02-222	実務経験の有無	有	関連DP	1, 2, 4, 5	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

伝統的なブッダの説いた瞑想法としてのマインドフルネスと、カバットジンによって現代化された実践的プログラムであるMBSRに代表されるマインドフルネスの相関関係を理解する。仏教の基本的な教義が、マインドフルネス実践の中でどのようにつながり合っているのかを体験的に理解する。マインドフルネスのプラクティスの体験を通して、生きることの苦および心身の反応を認識し、自己理解を深めて自他のケアのあり方を探索する。そのため講義と瞑想的エクササイズを含む実践を組み合わせる授業を進める。

### 授業の到達目標

マインドフルネスの語源的意味、実践的意味を理解して、実際の日常生活の中で応用できるようにする。仏教の教義を含めて、マインドフルネスについて自分の言葉で説明できるようになる。医療・福祉領域などでの対人援助活動における自身の在り様としてマインドフルネスを体現し実践できるようになる。

### 授業計画

1. ブッダの説いたマインドフルネスの教えがカバット・ジンのMBSRによって現代化された流れについて
2. 東洋の仏教、西洋の仏教、社会参画仏教
3. 学びのステップ：戒定慧
4. 出息入息念経（アーナーパーナサティ・スッタ）について
5. 念処経（サティパッターナ・スッタ）について
6. 縁起について
7. 四聖諦について
8. 身心一如のメカニズム
9. マインドフルネスの科学的知見
10. マインドフルネスの応用の実際
11. 四無量心について
12. マインドフルネスとケア
13. 対人援助関係における援助者の在り様
14. マインドフルネスとコンパッションによる燃えつき防止プログラムG. R. A. C. E. について
15. マインドフルネスと倫理について

### 準備学習(予習・復習)・時間

予習は必要ないが、授業で学んだことを復習して日常生活の中で180分以上実践してみること。

### テキスト

テキストは用いず、講師がパワーポイントの資料を用意する。

### 参考書・参考資料等

井上ウィマラ・杉浦義典『私たちはまだマインドフルネスに出会っていない』日本評論社 2022 井上ウィマラ編著『仏教心理学キーワード事典』春秋社 2012 井上ウィマラ『呼吸による気づきの教え』佼成出版社 2005

### 学生に対する評価

「授業で学んだことをまとめ、今後の生活にどのように活かしていきたいか」というテーマで1,600字～2,000字程度（A42枚まで）でレポート（100%）をまとめる。提出期限と提出先は最終授業で伝える。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 目標を達成することができる。
- (B) 自分なりの言葉で表現することができる。
- (A) コンパクトかつ説得力のある文章で表現することができる。
- (S) 極めて深いレベルで理解し、そのことが文章表現を通して伝えることができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問やコメントは授業内で対応する。また毎回の授業終了時に提出されるレポートの内容についてのコメント等は次回の授業内で対応する。

### その他

スクーリングではさまざまなエクササイズを行うので動きやすい服装で参加すること。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

心身医学領域での臨床心理士・公認心理師として20年以上の実務経験、研究歴および瞑想歴に加え、大学教員、米国ブラウン大学認定マインドフルネスストレス低減法（MBSR）講師としての実務・指導経験に基づいて教授する。

科目名	サンスクリット語上級S					学期	通年	
副題	古典サンスクリット語の文学作品を読む				授業方法	講義	担当者	徳重弘志
ナンバリング	G2-07-133	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 A

### 授業の目的と概要

サンスクリット語とは、インドで古来から用いられてきた言語である。同地域で成立した多くの宗教（仏教、ヒンドゥー教など）では、その聖典がサンスクリット語で著されている。そのため、仏教経典の内容を深く理解するためには、当該の言語の習得が不可欠である。この授業は、初等文法を学習し終えた学生を対象として、サンスクリット語の文法事項をさらに一歩踏み込んで学習することにより、インド古典に対する読解力をより高めることを目的とする。

### 授業の到達目標

・サンスクリット語の文法事項を理解し、他者に説明できるようになる。・サンスクリット語で記された古典文学作品を、品詞を理解しながら翻訳できるようになる。・Readerにおける文法事項や注記を参照することで、文献学の基礎を理解できるようになる。

### 授業計画

#### 【前期】

1. イントロダクション (授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導)
2. 初等文法の確認 (1): 文字と発音・母音の曲用・子音の曲用
3. 初等文法の確認 (2): 比較法・代名詞・数詞・不変化詞
4. 初等文法の確認 (3): 動詞の活用 (現在組織)
5. 初等文法の確認 (4): 連声法・準動詞・名称詞語法・合成語法・韻律
6. 初等文法の確認 (5): 動詞の活用 (現在以外の時制の組織)
7. 読解 (1): 散文の翻訳 (Hitopadeśa 1)
8. 読解 (2): 散文の翻訳 (Hitopadeśa 2)
9. 読解 (3): 散文の翻訳 (Hitopadeśa 3)
10. 読解 (4): 散文の翻訳 (Hitopadeśa 4)
11. 読解 (5): 散文の翻訳 (Hitopadeśa 5)
12. 読解 (6): 散文の翻訳 (Hitopadeśa 6)
13. 読解 (7): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 1)
14. 読解 (8): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 2)
15. 読解 (9): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 3)

#### 【後期】

1. 読解 (10): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 4)
2. 読解 (11): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 5)
3. 読解 (12): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 6)
4. 読解 (13): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 7)
5. 読解 (14): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 8)
6. 読解 (15): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 9)
7. 読解 (16): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 10)
8. 読解 (17): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 11)
9. 読解 (18): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 12)
10. 読解 (19): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 13)
11. 読解 (20): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 14)
12. 読解 (21): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 15)
13. 読解 (22): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 16)
14. 読解 (23): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 17)
15. 読解 (24): 韻文の翻訳 (Nalopākhyāna 18)

### 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、授業内で指定した文章を現代日本語訳しておくこと (150分)。・事後学習として、授業で学んだ文法事項について復習しておくこと (30分)。

### テキスト

・ Charles Rockwell Lanman. A Sanskrit Reader (何度も再版されている為、どの版でも可) ・ William Dwight Whitney. Sanskrit Grammar (同上) ・ 吹田隆道『実習サンスクリット文法』、春秋社、2015年 (小堀南岳堂書店で購入)

### 参考書・参考資料等

・ 辻直四郎『サンスクリット文法』、岩波書店、1974年 ・ 鎧淳 訳『J. ゴンダ：サンスクリット語初等文法』、春秋社、1982年

### 学生に対する評価

発表 (100%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 基本的な文法事項を理解できている。  
 (B) Readerにおける文法事項や注記を正確に理解できている。  
 (A) サンスクリット語の長文を、ある程度の精度で翻訳できる。  
 (S) サンスクリット語の長文を、正確に翻訳できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見に対しては、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。・原則的にはサンスクリット語初級の既習者が対象であるが、必要によっては適宜相談に応じる。

科目名	チベット語S					学期	通年	
副題	古典チベット語文法				授業方法	講義	担当者	井内真帆
ナンバリング	G2-07-134	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 A

### 授業の目的と概要

広くチベット文化圏で用いられるチベット文字を習得し、古典チベット語文法の基礎を学ぶ。初学者も参加できる入門クラス。

### 授業の到達目標

チベット文字を習得し、読解に必要な古典文法の基礎を学ぶ。辞書を引いて古典チベット語文献の短い文章を読めるようにする。

### 授業計画

#### 【前期】

1. 授業ガイダンスならびにチベット文字の世界入門
2. 30の基本文字
3. 30の基本文字（続）と文字の書き方
4. 反転文字と母音記号
5. ya 有足字とra 有足字
6. la 有足字とwa 有足字
7. ra 有頭字、la 有頭字、sa 有頭字
8. 語の成り立ちと発音
9. 基本文形
10. 代名詞と助動詞（過去・現在・未来）
11. 助動詞（義務・欲求・可能・経験・使役）
12. 属格助辞
13. 具格助辞
14. la don助辞
15. 試験と総括

#### 【後期】

1. 従格助辞
2. 間投助辞と依他助辞
3. 接続助辞と開摂助辞
4. 完結助辞
5. 現在進行形を示す助辞
6. dang 助辞
7. 不定称助辞と否定助辞
8. 所有接尾辞
9. その他の助辞
10. その他の助辞（続）
11. 動詞
12. 動詞（続）
13. 辞書の引き方と文章を読んでみる
14. 文章を読んでみる（続）
15. 試験と総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の授業範囲に目を通しておくこと（30分）、事後学修としてその日に習ったことを復習して身につけること（150分）

### テキスト

ツルティム・ケサン、小谷信千代（編）『実践チベット語文法－用例を中心として－』文栄堂、2003（入手方法に関しては授業中に指示する）。

### 参考書・参考資料等

星泉『古典チベット語文法－『王統明鏡史』（14世紀に基づいて）』東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所、2016（<http://repository.tufs.ac.jp>よりダウンロード可能）。※その他、必要に応じて講義の中で指示する。

### 学生に対する評価

授業参加状況（60%）、習熟度（40%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) チベット文字を読むことができ、綴りの構造が理解できる。
- (B) チベット文字を読むことができ、基礎的な文法事項を理解できる。
- (A) チベット文字を読むことができ、文法事項を理解した上で簡単な文章を読むことができる。
- (S) チベット文字を読むことができ、文法事項を理解した上で、自分で辞書を引いて簡単な文章を読むことができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業の中でフィードバックを行う。

### その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	パーリ語S					学期	通年	
副題	基礎文法				授業方法	講義	担当者	岡田英作
ナンバリング	G2-07-135	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他 A

### 授業の目的と概要

パーリ語とは、伝統的には仏教の聖典語、すなわち仏陀の言葉を記録した言語であり、サンスクリット語、チベット語などと同様に、仏教学および密教学の学習・研究を進める上で極めて有益な言語のひとつである。本授業は、パーリ語文法の基礎を習得し、パーリ語仏典の読解力を養うことを目的とする。サンスクリット語の初等文法の未履修者に考慮して、パーリ語の文法事項を丁寧に確認する。サンスクリット語の履修者に向けては、パーリ語の音韻的特徴などを把握することで、サンスクリット語に対する理解を深める。

### 授業の到達目標

パーリ語の基本的な文法事項を押さえ、パーリ語仏典を自力で読解できる力を身につける。

### 授業計画

#### 【前期】

1. オリエンテーション (シラバスの説明、授業の進め方等)
2. 文字と発音
3. 連声法①
4. 連声法②
5. 品詞、名詞の格変化①
6. 動詞
7. 現在形、名詞の格変化②
8. 未来形、名詞の格変化③
9. 過去形
10. 代名詞、形容詞、同格
11. 数詞、不変化辞
12. 命令法、名詞の格変化④
13. 願望法、名詞の格変化⑤
14. 文章構成法
15. 試験と総括

#### 【後期】

1. 連続体、条件法
2. 不定体、名詞の格変化⑥
3. 受動調
4. 使役動詞
5. 分詞、現在分詞、名詞の格変化⑦
6. 過去分詞
7. 未来分詞
8. 動詞と名詞の造語法
9. 合成語①
10. 合成語②
11. 合成語③
12. 格の用法
13. 韻律
14. 仏典を読む
15. 試験と総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学習として、指示された次のテキストの範囲を読んでおくこと、各課で指定された練習問題を解くこと (90分) 事後学習として、テキストおよび講義ノートを見直し、必要な文法事項や語彙を覚えておくこと (90分)

### テキスト

ショバ・ラニ・ダシュ『パーリ語文法—仏典の用例に学ぶ—』法蔵館、2021 (書店で購入) 上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

### 参考書・参考資料等

①水野弘元『パーリ語文法』山喜房佛書林、補訂1959、②水野弘元『増補改訂パーリ語辞典』春秋社、2005、③Geiger, Wilhelm. A Pali Grammar. Oxford: The Pali Text Society. 1994. 他は授業中に紹介する。

### 学生に対する評価

授業参加の積極性 (30%)、期末試験 (70%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 文字と発音を理解し、特定の単語の意味を調べることができる。
- (B) パーリ語の音韻的特徴を理解している。
- (A) 基本的な文法事項を理解している。
- (S) テキストにおける文法事項を押さえ、語彙集を参照して、パーリ語文を翻訳できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

各課の練習問題の解答を中心に受講生の積極的な参加が必要なアクティブ・ラーニングである。サンスクリット語の初等文法を履修済ないし履修中の者が望ましいが、熱意のある者であれば誰でも歓迎する。

科目名	巡礼・遍路S					学期	通年	
副題	聖地巡礼の自主企画と実施				授業方法	講義	担当者	密教学科主任
ナンバリング	G1-26-142	実務経験の有無	無	関連DP	5	単位数	2	他 A

### 授業の目的と概要

一定期間、日常を離れ、四国八十八ヶ所や西国三十三観音などの巡礼（一部でも可）することで、座学では得られない、体験を通じた身心の覚醒を図ることを目的としている。実習時間は40時間とし、事前に実習計画書を作成して提出する。実習期間中は実習日誌を作成し、40時間分の実習を完了したら実習レポートと作成して提出する。

### 授業の到達目標

巡礼や遍路の体験を通して、宗教的感性を涵養するとともに、計画を立てて実行し、報告する能力を身につける。

### 授業計画

1. 実習計画書の作成① : 実習の具体的なプランを考える。
2. 実習計画書の作成② : 実習計画書&実習日誌書式を各種ダウンロードページでダウンロードする。
3. 実習計画書の作成③ : 実習計画書を作成する。
4. 実習計画書の作成④ : 実習時間は1日4時間～8時間、最大40時間で作成すること。
5. 実習計画書の提出② : 作成した実習計画書を遠隔教育支援室（enkaku@koyasan-u.ac.jp）へ提出
6. 実習許可通知 : 実習計画書に許可が下りたら遠隔教育支援室から連絡がある。
7. 実習開始
8. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
9. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
10. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
11. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
12. 巡礼・遍路の実習 : 実習期間中の実習日誌を作成する。
13. 実習終了
14. 実習レポートの作成 : 40時間分の実習日誌に基づいてレポート（800字以上）を作成。
15. 実習日誌・レポートの提出 : 遠隔教育支援室窓口へ提出（郵送）。この時点で履修登録。

### 準備学習(予習・復習)・時間

・実習計画書作成のための学習（60分） ・実習日誌作成（60分） ・実習レポート作成による振り返り（60分）

### テキスト

・特に無し

### 参考書・参考資料等

・実習計画書にあわせて指導する。

### 学生に対する評価

実習計画書（30%）、実習日誌（30%）、実習レポート（40%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 巡礼・遍路を自分で立てた計画に従って実施し、報告できる。  
 (B) 巡礼・遍路の体験以前と以後の違いを説明できる。  
 (A) 巡礼・遍路の意味を説明できる。  
 (S) 上記(C)～(A)を踏まえて、巡礼・遍路の意義を学術的に説明できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

実習レポートの講評を個別に実施する。

### その他

・実習は複数年度にわたってもよい。ただし実習を行う都度に実習計画書を提出すること。 ・1日の実習は、4時間以上8時間以内とする（移動時間は適宜含めてよい）。 ・移動手段は自由に設定してよい。健康状態や事情に応じた現実的な実習計画を立てること。 ・大学主催の研修や旅行等への参加も巡礼・遍路の一環として認める。 ・課外授業用の保険に加入すること。

科目名	巡礼・遍路T						学期	前期	
副題	四国遍路と各地の巡礼				授業方法	講義	担当者	柴谷宗叔	
ナンバリング	G1-01-143	実務経験の有無	有	関連DP	1, 3, 4, 5	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

弘法大師によって開かれたとされる四国八十八ヶ所遍路や、西国三十三所など各地の巡礼について、歴史と現状、巡拝の仕方などについて学ぶ。スライド等を使ったバーチャル体験もできるようにする。座学だけでなく、実際に巡拝をする場合のノウハウも身につける。実際に遍路に出る場合に戸惑わないよう実習も行う。

### 授業の到達目標

四国遍路や各地の巡礼について、仏教的な立場から説明できるようになる。用語、歴史等、基礎的な知識を学び、実際の巡拝に活用できるようになる。巡拝作法や巡拝計画の立て方を身につける。

### 授業計画

1. オリエンテーション
2. 巡礼・遍路の定義
3. 遍路習俗と巡拝作法
4. 四国遍路の歴史
5. 阿波の霊場
6. 土佐の霊場
7. 伊予の霊場
8. 讃岐の霊場
9. 江戸時代の四国遍路
10. 現代の四国遍路
11. 西国三十三所概要
12. 番外札所と写し霊場
13. 実践方法の伝授
14. 高野山奥の院での実習
15. 総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前に、次の講義で扱う部分のテキストを読み、疑問点などを整理しておくこと (60分)。講義内容と、講義中に配布された資料を整理し、レポートにまとめられるようにする (60分)。

### テキスト

柴谷宗叔『四国遍路 ころの旅路』(慶友社、2017) (書店で購入)

### 参考書・参考資料等

柴谷宗叔『江戸初期の四国遍路』(法蔵館)、同『公認先達が綴った遍路と巡礼の実践学』(高野山出版)、愛媛大学四国遍路・世界の巡礼研究センター編『四国遍路の世界』(ちくま新書)、『四国遍路ひとり歩き同行二人』(へんろみち保存協力会) など

### 学生に対する評価

レポート (50%)、授業参加の積極性 (50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 四国遍路について簡単に説明できる
- (B) 四国遍路と各地の巡礼について用語や歴史を説明できる
- (A) 四国遍路と各地の巡礼について、各霊場の特徴や違いについて説明できる
- (S) 四国遍路と各地の巡礼について、成立や歴史を踏まえ、宗教的意義を説明できる

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回の講義で質問を受け付け、次回以降に回答する

### その他

できる限り実際に巡拝することを勧める。休日などに実際に札所巡拝を行うことが望ましい。方法は講義中に指示する。時間が取れない場合はテキストや講義中に適宜紹介する文献をできるだけ多く読んでおくこと。受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

### 実務経験のある教員が行う授業内容(どのような経験を持ち、どのような授業内容か)

四国遍路120周以上の元老大先達、西国巡拝50周以上の特任大先達、日本各地の巡礼50か所以上の、実際の巡拝体験をもとに巡拝方法などを伝授する。高野山真言宗住職として、性善講を主宰しての巡拝も行っているので、参加することも可能。詳細は講義中に説明する。

科目名	宗教学方法論S					学期	後期	
副題	戦後日本のコスモロジー				授業方法	講義	担当者	小田龍哉
ナンバリング	G2-03-149	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他 A

### 授業の目的と概要

戦後日本の娯楽映画作品を中心に取り上げ、それらの作中で描かれる「日本」のさまざまな象徴化や排除の構造分析をつうじて、宗教学の方法論を理解する。

### 授業の到達目標

戦後日本文化の分析をつうじて、宗教学の方法論を理解する。

### 授業計画

1. ガイダンスの後、宗教学の方法論について概説
2. 戦後日本の成立と忘却・否認——『君の名は』『ジャコ萬と鉄』
3. 娼婦から母へ——『カルメン故郷に帰る』『二十四の瞳』
4. 兵士からアウトローへ——「渡り鳥」シリーズ、「網走番外地」シリーズ
5. 列島を血肉化する——『憎いあんちくしょう』『家族』
6. 南島はどう描かれたか——『潮騒』『神々の深き欲望』『夏の妹』
7. 再発見される「ジャパン」——「男はつらいよ」シリーズ①
8. 結ばれない男と女の戦後——「男はつらいよ」シリーズ②
9. アウトローから少女へ——『野性の証明』『セーラー服と機関銃』
10. 聖化される少女——『ルパン三世 カリオストロの城』『尾道三部作』
11. まなざしをめぐる少女と少年——『ヘルター・スケルター』『AKIRA』
12. 無縁社会の到来——『ソナチネ』『もののけ姫』
13. 少女だけの世界で——『下妻物語』『フラガール』
14. 名を取り戻す——『君の名は。』『ゴールデンカムイ』
15. まとめと総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として、次回とりあげる作品についての基本情報を調べておくこと(90分)。事後学修として、ノートと資料を読み、理解を完全なものにすること(90分)。

### テキスト

授業中に適宜配布する。

### 参考書・参考資料等

特に指定しない。

### 学生に対する評価

期末レポート(70%)、授業中の発言、発表(30%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 映画作品の内容を正確に読み解くことができる。
- (B) 宗教学の方法論をポストコロニアル批判に応用して日本文化を読解できる。
- (A) 宗教学の方法論をジェンダー批判に応用して日本文化を読解できる。
- (S) 宗教学の方法論を応用し、自分なりの言葉で現代社会の問題点を指摘できる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見について、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	日本文学IS					学期	前期		
副題	「日本文学」を読むー上代・中古ー				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G1-04-156	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	ー

### 授業の目的と概要

「日本文学」とはどのようなものか。具体的な作品に触れながらその特徴を考察するとともに、文学研究の基本的な姿勢について学ぶ。前期は主に上代・中古の文学を取り上げる。

### 授業の到達目標

日本文学の特徴を理解する。文学研究の基本的な姿勢を身につける。

### 授業計画

1. ガイダンス／「日本 - 文学」とは何か
2. 日本文学を学ぶためにー時代区分・ジャンルー
3. 文学を伝える「かたち」
4. 神話の世界
5. 古代歌謡と『万葉集』
6. 王朝和歌と平安貴族の生活
7. 「日記」と文学
8. レポートの書き方
9. 「物語」の誕生
10. 女房文学の時代
11. 『源氏物語』の世界①
12. 『源氏物語』の世界②
13. 説話の世界
14. 院政期の文学
15. レポート講評／「中世」の始発

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲の参考文献を読み(予習60分)、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと(復習90分)。

### テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

### 参考書・参考資料等

①高校で使用した「国語便覧」(どの出版社のものでも可) ②秋山虔ほか編『日本古典読本』(筑摩書房、1988年) その他、講義中に適宜紹介する。

### 学生に対する評価

毎回のコメントカード(50%)、レポート(50%)

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学の作品を覚えている。
- (B) 他文献を参考にしながら日本文学の特徴を述べるができている。
- (A) 日本文学の特徴を理解し、自分の言葉で表現することができる。
- (S) 日本文学について、問題意識を持って論じることができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

### その他

講義に関する疑問などは、コメントカードを活用してほしい。3分の1(6回)以上欠席した場合、評価しない。古語や古典文法についてはすべてを説明するわけではないため、苦手な者は辞書や文法書を持ち込んでもよい。

科目名	日本文学ⅡS					学期	後期		
副題	「日本文学」を読む—中世・近世—				授業方法	講義	担当者	溝端悠朗	
ナンバリング	G1-04-157	実務経験の有無	無	関連DP	1	単位数	2	他	—

### 授業の目的と概要

「日本文学」とはどのようなものか。具体的な作品に触れながらその特徴を考察するとともに、文学研究の基本的な姿勢について学ぶ。後期は主に中世・近世の文学を取り上げる。

### 授業の到達目標

日本文学の特徴を理解する。文学研究の基本的な姿勢を身につける。

### 授業計画

1. ガイダンス／「文学研究」とは何か
2. 中世和歌の世界
3. 戦乱の時代と軍記物語
4. 『方丈記』と『徒然草』
5. 中世の芸能
6. 文学と宗教
7. 出版・町人文化と文学
8. レポートの書き方
9. 芭蕉の世界
10. 国学者たちの活動
11. 上田秋成と曲亭馬琴
12. 近代化する社会と文学
13. 古典文学と近現代文学①
14. 古典文学と近現代文学②
15. レポート講評／まとめと総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

事前学修として次回の範囲の参考文献を読み（予習60分）、事後学修として講義内容をまとめ、レポートに備えておくこと（復習90分）。

### テキスト

教員が用意したプリントを使用する。

### 参考書・参考資料等

①高校で使用した「国語便覧」（どの出版社のものでも可） ②秋山虔ほか編『日本古典読本』（筑摩書房、1988年） その他、講義中に適宜紹介する。

### 学生に対する評価

毎回のコメントカード（50%）、レポート（50%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 日本文学の作品を覚えている。
- (B) 他文献を参考にしながら日本文学の特徴を述べるができている。
- (A) 日本文学の特徴を、自分の言葉で表現できている。
- (S) 日本文学について、問題意識を持って論じることができている。

### 課題に対するフィードバックの方法

毎回提出を求めるコメントカードのコメントに対しては、次回講義の冒頭で応答し、学びの連続性を確保する。

### その他

講義に関する疑問などはコメントカードを活用してほしい。3分の1（6回）以上欠席した場合、評価しない。古語や古典文法についてはすべてを説明するわけではないため、苦手な者は辞書や文法書を持ち込んでかまわない。

科目名	中国文化特殊講義S					学期	前期		
副題	空海『性霊集』の注釈を読む			授業方法	講義	担当者	南昌宏		
ナンバリング	G3-26-160	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A

### 授業の目的と概要

運徹『性霊集便蒙』は、弘法大師空海の文章に注釈を加えたものである。注釈は概ね中国の古典であることが多い。空海の文章を読解するためには、豊富な中国古典の教養が必要であることを知るのが目的の一つである。注釈については、できる限り原文を確認し、その特徴を知る。漢文読解に必要な文法、難読字の読み方、特別な用語や知識、参考文献や辞書・パソコンの適切な利用方法などを身に付けることも目的とする。学問分野は、密教・仏教・哲学・歴史学・文学など多岐にわたる。受講生は、テキストの書き下し・音読を必須とする。

### 授業の到達目標

○漢文訓読の基礎を修得する。 ○難読字や専門用語を調べることができる。 ○漢文を自学自習するための技法を修得する。 ○「典故を踏む」という技法を理解する。 ○漢文を読解し、内容を理解することができる。

### 授業計画

1. 右將軍良納言設大祥齋願文 (1) 題目を読む。
2. 右將軍良納言設大祥齋願文 (2) 「奇哉逸姁之徳……」を読む。
3. 右將軍良納言設大祥齋願文 (3) 「關千問乎津梁……」を読む。
4. 右將軍良納言設大祥齋願文 (4) 「挹其派者各奢……」を読む。
5. 右將軍良納言設大祥齋願文 (5) 「逮于赫曦頓照……」を読む。
6. 右將軍良納言設大祥齋願文 (6) 「白瞿風疾……」を読む。
7. 右將軍良納言設大祥齋願文 (7) 「八遮蕩穢……」を読む。
8. 右將軍良納言設大祥齋願文 (8) 「一真簡淨……」を読む。
9. 右將軍良納言設大祥齋願文 (9) 「防非莫作……」を読む。
10. 右將軍良納言設大祥齋願文 (10) 「声非声……」を読む。
11. 右將軍良納言設大祥齋願文 (11) 「其祖唯一……」を読む。
12. 右將軍良納言設大祥齋願文 (12) 「譬如一天衆星……」を読む。
13. 右將軍良納言設大祥齋願文 (13) 「伏惟故左僕射……」を読む。
14. 右將軍良納言設大祥齋願文 (14) 「謙恭守雌……」を読む。
15. 右將軍良納言設大祥齋願文 (15) 「温良生徒……」を読む。

### 準備学習(予習・復習)・時間

○予習として、未習テキストの書き下し文を提出すること (30分)。 ○難解な語彙について理解しておくこと (30分)。 ○復習として、既習テキストの書き下し文を提出すること (30分)。

### テキスト

コピーを配布する。(受講生の希望があれば、テキストの変更も可)

### 参考書・参考資料等

小川環樹ほか『新字源』角川書店 1994年改訂 諸橋轍次『大漢和辞典』大修館書店 2000年修訂増補 湯浅邦弘『中国思想基本用語集』ミネルヴァ書房 2020年 他は授業で紹介する。

### 学生に対する評価

平常レポート (50%)。最終レポート (50%)。

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) テキストを書き下しできる。
- (B) C段階に加え、正確に発音できる。
- (A) B段階に加え、専門的な語彙・語法を理解している。
- (S) A段階に加え、テキストの内容を十分に理解している。

### 課題に対するフィードバックの方法

○質問や意見については、授業内あるいはオフィス・アワーで対応する。

### その他

授業実数の3分の1を超えて欠席した場合は失格とする。受講生の予習・積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

科目名	仏教学特殊講義T					学期	前期		
副題	心とはなにかI				授業方法	講義	担当者	岡田英作	
ナンバリング	M3-02-286	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他	A・I

### 授業の目的と概要

心とはなにか。人類の歴史の中で幾度も取り上げられてきたこの問いに対して、仏教思想から向き合う。初期仏教、部派仏教、大乘仏教、密教の順に仏教の歴史を辿り、仏教が心についてどのように考えてきたのかを学ぶ。

### 授業の到達目標

仏教が心についてどのように考えてきたのかを仏教の歴史の流れに沿って概観し、仏教における心についての各思想に関する基礎知識を習得して、その知識を自身の関心と関連付けることができるようになる。

### 授業計画

1. オリエンテーション（シラバスの説明、授業の進め方等）
2. 心についてーことばの多義性ー
3. 心についてー各宗教の思想ー
4. 心についてー現代の場合ー
5. 心についてー仏教の思想ー
6. 仏教についてー歴史的多様性ー
7. 仏教についてー地域的多様性ー
8. ゴータマ・ブッダー苦の自覚ー
9. ゴータマ・ブッダー苦からの解放ー
10. ゴータマ・ブッダー直弟子たちー
11. 初期仏教経典ー釈迦の直説は現存するかー
12. 最古層の仏典ー心への配慮ー
13. 最古層の仏典ー執着と煩惱ー
14. 初期仏教ー五蘊、心・意・識ー
15. 授業の総括とレポートの講評

### 準備学習(予習・復習)・時間

講義内容の要点をノートに整理すること（60分）、講義で取り上げた専門用語を辞書などで調べて理解を深めておくこと（30分） 紹介した参考書・参考資料等から関心のあるものを読み、講義内容の理解を深めておくこと（90分）

### テキスト

竹村牧男『心とはなにかー仏教の探究に学ぶー』春秋社、2016（書店で購入・絶版の場合はコピーを配布） 上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

### 参考書・参考資料等

①相良亨『一語の辞典こころ』三省堂、1995、②竹村牧男『入門 哲学としての仏教』講談社現代新書、講談社、2009、③大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎①インド編 [改訂版]』大正大学、2016、④吉村均『空海に学ぶ仏教入門』ちくま新書、筑摩書房、2017。他は授業中に紹介する。

### 学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教についての基礎的な事項を理解している。
- (B) 仏教における心についての各思想を理解している。
- (A) 仏教における心についての各思想を自分の言葉で説明できる。
- (S) 仏教における心についての各思想を自身の関心と関連付けることができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

### その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。授業にはテキストの他に、ノートと授業中に配布したプリントを持参すること。

科目名	仏教学講読演習Ⅰ					学期	後期	
副題	心とはなにかⅡ				授業方法	講義	担当者	岡田英作
ナンバリング	M3-02-287	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	2	他 A・I

### 授業の目的と概要

心とはなにか。人類の歴史の中で幾度も取り上げられてきたこの問いに対して、仏教思想から向き合う。初期仏教、部派仏教、大乘仏教、密教の順に仏教の歴史を辿り、仏教が心についてどのように考えてきたのかを学ぶ。

### 授業の到達目標

仏教が心についてどのように考えてきたのかを仏教の歴史の流れに沿って概観し、仏教における心についての各思想に関する基礎知識を習得して、その知識を自身の関心と関連付けることができるようになる。

### 授業計画

1. オリエンテーション（授業の進め方等）とビデオ鑑賞（仏教に関するもの）
2. アビダルマ仏教－南方上座部ならびに説一切有部の範疇論－
3. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（1）大地法－
4. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（2）大善地法－
5. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（3）大煩惱地法・大不善地法－
6. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（4）小煩惱地法・不定地法－
7. アビダルマ仏教－説一切有部の心の分析（5）心心所の働き方－
8. 大乘仏教－大乘経典と大乘論師－
9. 大乘仏教－瑜伽行派の範疇論と心の分析（1）六識－
10. 大乘仏教－瑜伽行派の心の分析（2）マナ識・アーラヤ識－
11. 大乘仏教－転識得智－
12. 大乘仏教－仏性・如来蔵－
13. 大乘仏教－中観派の範疇論と心の分析－
14. 密教－『大日経』『住心品』－
15. 授業の総括とレポートの講評

### 準備学習(予習・復習)・時間

講義内容の要点をノートに整理すること（60分）、講義で取り上げた専門用語を辞書などで調べて理解を深めておくこと（30分） 紹介した参考書・参考資料等から関心のあるものを読み、講義内容の理解を深めておくこと（90分）

### テキスト

竹村牧男『心とはなにか－仏教の探究に学ぶ－』春秋社、2016（書店で購入・絶版の場合はコピーを配布） 上記テキストとは別に授業中に資料を配布する。

### 参考書・参考資料等

①佐々木閑『仏教は宇宙をどう見たか』化学同人、2013、②師茂樹『『大乘五蘊論』を読む』春秋社、2015、③大正大学仏教学科編『お坊さんも学ぶ仏教学の基礎①インド編 [改訂版]』大正大学、2016、④吉村均『空海に学ぶ仏教入門』ちくま新書、筑摩書房、2017。他は授業中に紹介する。

### 学生に対する評価

授業参加の積極性（40%）、期末レポート（60%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 仏教についての基礎的な事項を理解している。
- (B) 仏教における心についての各思想を理解している。
- (A) 仏教における心についての各思想を自分の言葉で説明できる。
- (S) 仏教における心についての各思想を自身の関心と関連付けることができる。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。最終授業で、提出されたレポートを添削して返却し、授業全体に対するフィードバックを行う。

### その他

受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。授業にはテキストの他に、ノートと授業中に配布したプリントを持参すること。

科目名	密教学演習V					学期	通年	
副題	卒業研究指導				授業方法	演習	担当者	徳重弘志
ナンバリング	M3-25-288	実務経験の有無	無	関連DP	1, 2	単位数	4	他 A

### 授業の目的と概要

この演習では、密教文化コースの学生が、特定のテーマに関する短いレポートを作成することを通じて、卒業研究を完成させるために必要なスキルを身につけることを目的としている。特に、密教文化コースには、いわゆる文系・理系を問わず様々な背景を持つ学生が在籍しているため、まずは文学部における基本的なレポートの執筆方法から解説を始め、最終的には現代の社会問題に対して密教がどのようにアプローチできるのかといった専門的な内容を扱う。

### 授業の到達目標

・専門書やインターネットの文章を、盗用を疑われない適切な方法で引用できるようになる。 ・仏教や密教が、社会問題についてどのようにアプローチしてきたのかを調査できるようになる。 ・現代における社会問題について、仏教・密教の思想に基づいて、自説を表明できるようになる。

### 授業計画

#### 【前期】

1. イントロダクション（前期授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. 卒業研究指導①（主要な社会問題について解説した上で、学生から興味がある分野を確認する）
3. 卒業研究指導②（テーマの重要性和興味とを結びつけて、適切な研究領域を見つける手法を学ぶ）
4. 卒業研究指導③（講義のために仮の研究テーマを設定した上で、適切な文献の選定方法を習得する）
5. 卒業研究指導④（書評をもとに、どのような観点から文献を読むべきかを学ぶ）
6. 研究発表①（各人が興味のある文献を選び、短い書評を提出する。講義内でその内容を検討する）
7. 研究発表②（各人が興味のある文献を選び、短い書評を提出する。講義内でその内容を検討する）
8. 卒業研究指導⑤（調査問題の明確化と仮説の立て方を探求し、レポートの方向性を確立する）
9. 卒業研究指導⑥（必要となるデータの収集方法を磨き、結果をレポートに統合する方法を理解する）
10. 卒業研究指導⑦（序論、本論、結論の明確な構築法と段落の流れを習得し、レポート全体を統一する）
11. 卒業研究指導⑧（正確な表現と引用の仕方、論理的な文章構成に焦点を当て、執筆技術を向上する）
12. 研究発表③（興味のあるテーマを選び、短いレポートを提出する。講義内でその内容を検討する）
13. 研究発表④（興味のあるテーマを選び、短いレポートを提出する。講義内でその内容を検討する）
14. 卒業研究指導⑨（担当教員が、以上の手順で作成したレポートを見本として発表する）
15. 前期授業における講義内容の総括

#### 【後期】

1. イントロダクション（後期授業の全体像の説明と、予習・復習の方法についての指導）
2. 密教と社会正義①（担当教員が、当該のテーマについて解説を行う）
3. 密教と社会正義②（具体的な事例に焦点を当て、問題の所在を明らかにする）
4. 研究発表⑤（本テーマに興味のある学生が、短いレポートを提出する。講義内でそれを検討する）
5. 密教と環境問題①（担当教員が、当該のテーマについて解説を行う）
6. 密教と環境問題②（具体的な事例に焦点を当て、問題の所在を明らかにする）
7. 研究発表⑥（本テーマに興味のある学生が、短いレポートを提出する。講義内でそれを検討する）
8. 密教と倫理①（担当教員が、当該のテーマについて解説を行う）
9. 密教と倫理②（具体的な事例に焦点を当て、問題の所在を明らかにする）
10. 研究発表⑦（本テーマに興味のある学生が、短いレポートを提出する。講義内でそれを検討する）
11. 密教と多文化共生①（担当教員が、当該のテーマについて解説を行う）
12. 密教と多文化共生②（具体的な事例に焦点を当て、問題の所在を明らかにする）
13. 研究発表⑧（本テーマに興味のある学生が、短いレポートを提出する。講義内でそれを検討する）
14. 研究発表⑨（各人が別の分野の文献を選び、短い書評を提出する。講義内でその内容を検討する）
15. 後期授業における講義内容の総括

### 準備学習(予習・復習)・時間

・事前学習として、各回のテーマについて情報をあつめ、要点を把握しておくこと（90分）。 ・事後学習として、授業内容を振り返りながら整理して、質問や感想を提出すること（90分）。

### テキスト

・戸田山和久『最新版 論文の教室』、NHKブックス、2022年

### 参考書・参考資料等

・山口裕之『コピペと言われないレポートの書き方教室』、新曜社、2013年 ・本多勝一『新版 日本語の作文技術』、朝日新聞出版、2017年

### 学生に対する評価

研究発表（70%）、毎回の授業で課す小レポート（30%）

### ルーブリック(目標に準拠した評価)

- (C) 関心があるテーマについて、必要となるデータを収集した上で、自分の考えを表明することができている。
- (B) 関心があるテーマについて、必要となるデータを収集し、その内容を適切に整理した上で、仏教や密教の思想に基づきながら、自分の考えを表明することができている。
- (A) ①テーマ設定、②文章構造、③日本語表現、といったレポートや論文の執筆に必要な要素を、一部改善可能な点があるが高い水準で実践できている。
- (S) ①適切なテーマ設定、②論理的な文章構造、③正確な日本語表現、といったレポートや論文の執筆に必要な要素を、すべて実践できている。

### 課題に対するフィードバックの方法

質問や意見については、毎回の授業内でフィードバックを行う。

### その他

・受講生の関心に応じて、授業内容を部分的に変更する場合がある。 ・担当を決めて、該当内容に関する発表をしてもらう。 ・受講生の積極的参加が必要なアクティブ・ラーニングである。

学修ガイドブック 令和6年度(2024)

---

2024年4月1日発行

編集・発行 高野山大学  
〒648-0280 和歌山県伊都郡高野町高野山385  
T E L : (06) 4301-7843 (遠隔教育支援室)  
F A X : (06) 4301-7893  
E-mail : enkaku@koyasan-u.ac.jp  
U R L : <https://www.koyasan-u.ac.jp>

---